

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM 講演会  
**教育改革の先行事例としての S G H**  
グローバル社会に開かれた、資質・能力ベースの、課題研究

広島県立広島高等学校 学校経営担当主査 小笠原 成章

**I 取組事例**

- ①夏季集中講座のデザイン 海外で議論できる生徒の育成
- ②卒業研究のデザイン 知的主体として生きる生徒の育成

**II 資質・能力ベースの学びへ**

**III 広島高校の S G H としての取組**

**IV 課題研究のカリキュラム・マネジメント**

**V パフォーマンス評価**

**VI 海外研修**

**VII 学校設定科目「グローバルエクスプレッション」**



# はじめに

- ・新学習指導要領で求められている教育の姿と、スーパーグローバルハイスクール（SGH）が平成26～令和2年に取り組んできた教育には、共通の課題意識や方法論があります。
- ・広島高校は平成27～令和元年の5年間SGHの指定を受け、私（小笠原）は課題研究部分の研究開発に携わりました。
- ・この間の経験が、その困難や未完成部分も含めて、みなさんの取組の参考になることを願って本日の報告を行います。
- ・SGHと新学習指導要領には設定の違いもあります。またSGH各校ごとに性格の違いもあります。以下は広島高校なりの課題意識による実践事例とご理解ください。SGHは文科省HPに概要やまとめサイトへのリンクがあります。またSGH各校は取組や最終年度の報告書などを学校HPで公開することになっていますから、みなさんの求めている実践とよりよく一致する学校が見つかるかもしれません。
- ・広島高校は中学4クラス高校6クラスの中高一貫教育校（広島県立広島中学校・広島県立広島高等学校）で、大部分の生徒が大学に進学します。寄宿舎もあり全県下から生徒が集まっています。学力は多様ですが、難関大学に進学可能な力を授業でつけることを目指しており、教員は教科同士が「面」になって指導しようとします（自分の担当教科だけよくてもしかたがないという共通理解）。進学校として学力にこだわる意識を持ち続けながらSGHに取り組みました。

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM 講演会  
**教育改革の先行事例としての SGH**  
グローバル社会に開かれた、資質・能力ベースの、課題研究

広島県立広島高等学校 学校経営担当主査 小笠原 成章

**I 取組事例**

①夏季集中講座のデザイン 海外で議論できる生徒の育成

②卒業研究のデザイン 知的主体として生徒の育成

**II 資質・能力ベースの学びへ**

**III 広島高校の SGH としての取組**

**IV 課題研究のカリキュラム・マネジメント**

**V パフォーマンス評価**

**VI 海外研修**

**VII 学校設定科目「グローバルエクスプレッション」**

海外交流系の学びを  
2日間に凝縮

◆SGHのデザイン例として◆

# I 取組事例 ①夏季集中講座のデザイン 　　海外で議論できる生徒の育成

- SGH指定の前年度、先行的な試みとして海外研修を行ったが、生徒が現地で議論できなかつた【課題意識】  
(英語の「学力」と実際に外国で議論できることは別)
- SGH指定の年、広島県が在外広島県人会の高校生を広島に招き、日程の1日で本校において高校生間の交流を行うことになった【利用できる環境】



- 夏休みに2日間の「夏季集中講座」を企画。1年次の終わりに海外研修をしたい生徒等の、希望者を募る

(実際に海外研修を行う生徒は参加決定後にも事前指導を行う)

夏の講座の目的を、異文化間で議論しグローバルな社会問題を探究することと設定

海外研修までの大単元の主題であり、この日は自己を問うことが焦点

# 海外研修までの1年間

初期3年間。海外からの来校が増えるにつれ  
哲学対話は日本語に切り替え

- 4月 年間予定。グローバル・コア・コンピテンシーアンケート
- 5月 異文化交流に関するレクチャー【異文化交流】一部英語
- 6月 国際支援に関する講演会
- 7月 留学生との対話【異文化交流】英語

## 夏季集中講座

- 8月 海外研修（フィリピン）
- 10月 地域課題の解決を目指すポスター発表【課題研究】
- 12月 哲学対話「持続可能な社会とは」【議論の手法】英語  
海外研修参加者決定。研究テーマの指導（～3月）
- 1月 ミンダナオ島公務員候補者との対話【異文化交流】英語  
社会的課題のPPT発表（～3月）【課題研究】 海外研修テーマ準備含
- 2月 海外研修直前指導一部英語
- 3月 海外研修（オーストラリア・台湾）
- 4月 海外研修の振り返り

## 【基本的な考え方】

議論ができるようにする = 実際に外国人との議論を複数回経験させる

※話し合いを「議論」にするのに必要な力

- a 論点を設定し共有する力
- b 関連する知識を収集する力
- c 自分の考えをまとめる力
- d 他者と考えを伝えあい、合意形成する力
- e 英語でそれができる力

これら以前に、議論しようとする意志（積極性）が必要

夏季集中講座の中心に置く学びは大学の先生に相談

### 広島大学国際センター（当時）准教授 中矢礼美 先生の提案

「ゴミ問題」を題材に議論し、ポスター発表を行う

- ①生徒1グループごとに広島大学の留学生1, 2名が入る
- ②自己紹介・ワークショップ「私の国ではこれが当たり前」
- ③ゴミ問題をテーマにKJ法で考えを出す → 論点を設定
- ④議論しポスターにまとめる

ゴミ問題は、話し合った翌日から自分で実行できる題材である

自分が変わったことが、この体験で学べたことの証明

いきなり英語で議論するのは難度が高いので、ファシリテーターがほしかったが都合がつかず、留学生に議論をリードしてもらった

この学びを中心に、夏季集中講座をデザインする

# 議論を中心に置くカリキュラム・マネジメント

標準的な年の進行

ロールモデルを得る		相手を変えて同じテーマで2日議論し 2日目は発表としての仕上げにも注力する	
事前準備		※初日のみ広島大学で行う。校外という「場」の効果を狙う	
自己紹介の準備	1日目（広島大学）	県人会生徒に自己紹介 スクールツアーバイ生徒	2日目（本校）
スクールツアーの準備（相手意識を持って企画・訪問先との調整・原稿作成）	留学生に自己紹介 スクール・ツアーバイ留学生	県人会生徒とのワークショップ（1コマ）	昼食休憩
ワークショップの資料集め	昼食休憩	県人会生徒とのワークショップ（1コマ）	ポスター発表と 未来へのメッセージ
夏季集中講座の目標設定	中矢准教授によるレクチャー	振り返りと今後へのアクションプラン	振り返りと2日目のアクションプラン
理念の裏付けを得る	留学生とのワークショップ（2コマ）		
	振り返りと2日目のアクションプラン		

留学生は2日目にもファシリテーターとして参加

S G H 2年目以降は高2生もファシリテーターとして参加

※支援役として役立つというより、高2生が学ぶことが主目的

# 生きる姿勢を問う学びでは、振り返り/目標設定が大切

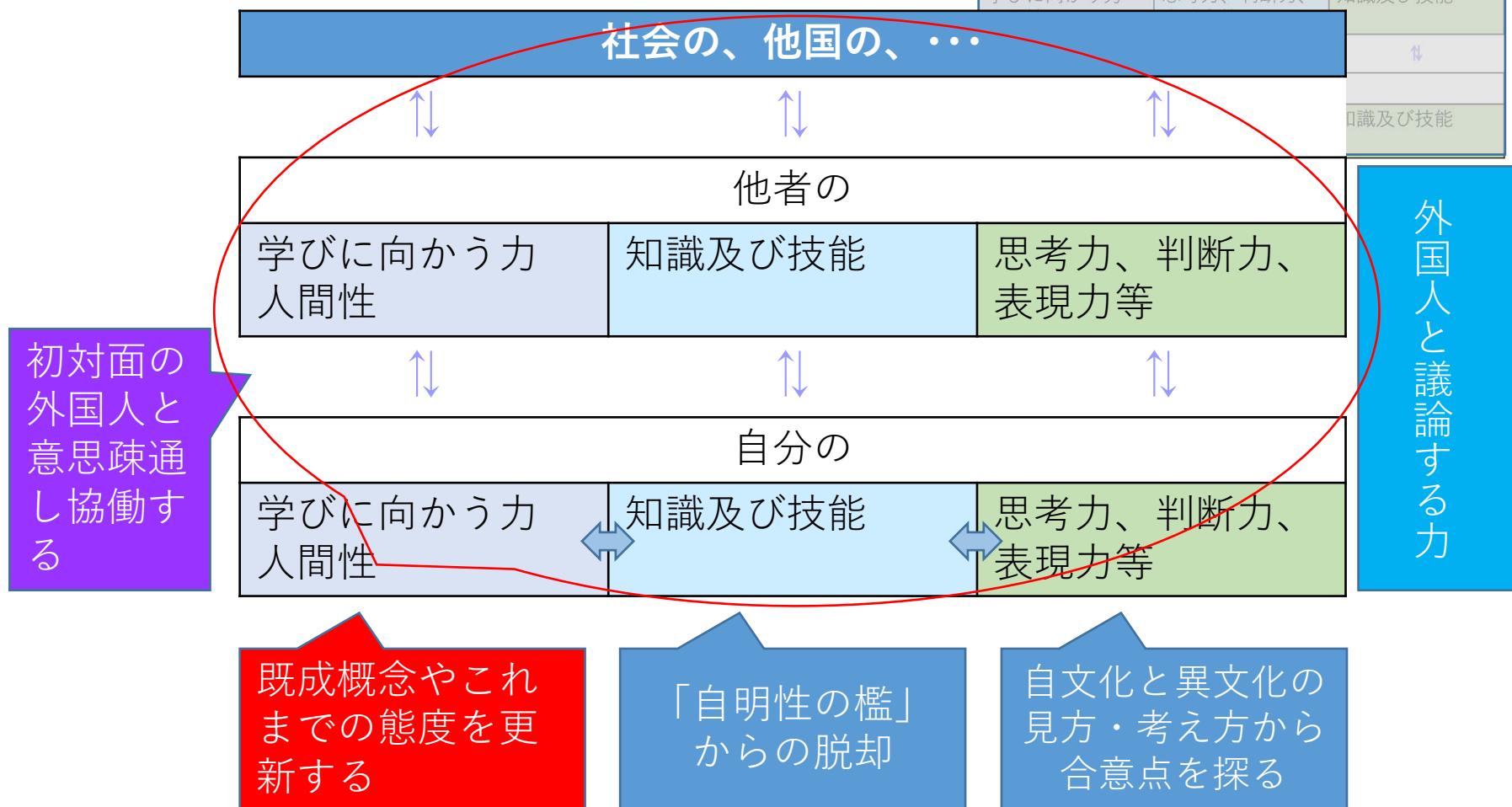
## 夏期集中講座1日目終了時の「明日のアクションプラン」

- ・日本語で話してしまった部分(相手に通じたので)があったので、英語で話すように心がける！
  - ・県人会の方々にスクールツアーナーを楽しんでもらう。ごみ問題について今日以上に良いディスカッションをする。
  - ・なんとか英語で伝える。
  - ・自分の分かる話は全力でくらいく。
  - ・英語をつまらずに言うこと。
  - ・下手になってしまっても英語で伝えようと努力する。
  - ・特にない。自然体でいく。
  - ・自己紹介だけは考えておいて、自分をアピールする。
  - ・相手に自分が言いたいことをしっかり伝える。
  - ・県人会の生徒の方と、ごみ問題以外の話ができるようになる。
  - ・積極的にコミュニケーションをとる。
  - ・積極的な行動を起こす。ホストの立場で！
  - ・たくさん会話する。
  - ・積極的に話す。(日本人とも、外国人とも)聞かれた質問にはっきり答える。
  - ・最初のあいさつでミスをしないようになる。
  - ・明日できたら司会をする。できなくてもサブ司会や積極的に意見を出して頑張りたい。
  - ・自分も相手もとにかく楽しめるようになる。
  - ・明日は、自分が今まで考えたことのなかったことに関しても、関心を持って取り組みたい。
  - ・日本文化が好きだと言われたので、自分の部活である「筆」をしっかり説明する。自分も含め、班全員で留学生と会話する。
  - ・もっと英語でコミュニケーションをする。話し合いをスムーズにする。
  - ・スクールツアーナーの時に、どんなことに興味を持っているのか(日本のこと)聞いてみようと思う。
  - ・自己アピール
  - ・アイコンタクト、こちらからアクション
  - ・間違を恐れないで話す。
  - ・もっと積極的に人とコミュニケーションをとる。
  - ・積極的なコミュニケーション
  - ・英語を使って伝えようとする。
  - ・できるだけ積極的に話しかけられるようになる。
  - 心構して会話を楽しむことを頑張りたい。
  - ・コミュニケーションを心がける。
  - ・下準備を入念に行って、留学生・県人生に満足してもらう。
  - ・自分の役割をこなす。
  - ・もっと留学生や県人会の方と交流する。
  - ・スクールツアーナーの時に1回でも自分から話しかける。
  - ・スクールツアーナーの自分の役割ははたす。
  - ・県人会の生徒にも、今日の改善点を活かす。
  - ・今日の2倍は話して、コミュニケーションをとる。
  - ・学校内を案内し、日本の文化を伝えたり、いろいろ紹介する(英語で)。
  - ・スクールツアーナーの準備、英語の説明をできるようになる。
  - ・もう少し、積極的に行動する。
  - ・筆の紹介・体験を楽しめるようになる。
  - ・受け身ではなく、自分から積極的に行動する。
  - ・人に頼りすぎず、自分の力だけで頑張ってみる。
  - ・留学生との充実した会話
  - ・もっと積極的に、自信を持って、意見を出します。
  - ・とにかく喋る。
  - ・スクールツアーナーで日本独自のものを相手に興味深く伝える。
  - ・留学生とまともな会話をする。アイコンタクト。
  - ・より積極的に話をする。

# 複合的な力の育成

日頃の繰り返しとイベントの繰り返し

「議論する」ことは普通の授業でも行うが、態度やスキル、知識を総動員するパフォーマンスであり、それらの掛け算の結果、議論のレベルには大きな差を生じる。外国人とのそれは議論の相手の他者性が上がったバージョンなので、議論力の向上は平生往生とも言えるし、異文化交流特有の要素もある



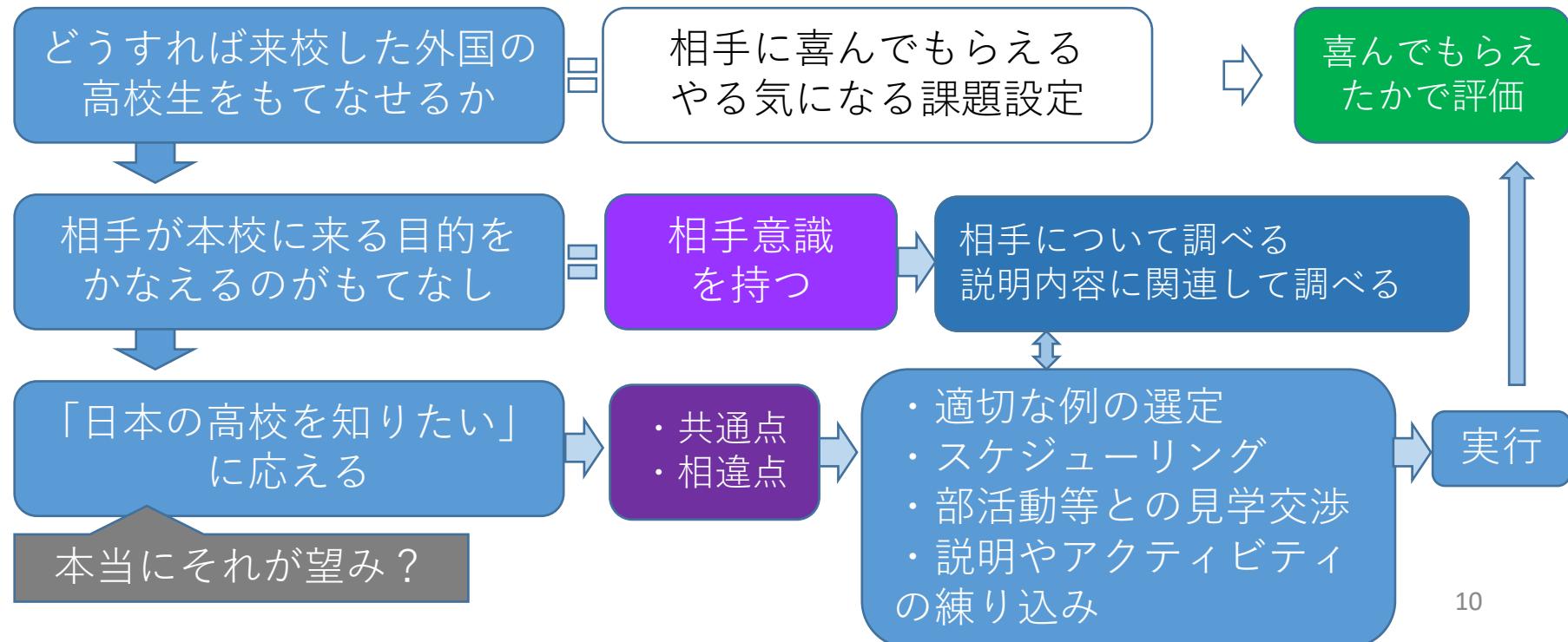
この学び特有の要素を活かす計画・評価が必要である

# スクールツアーというパフォーマンス課題

パフォーマンス課題の原則 京都大学西岡加名恵先生による校内研修会より

- ①妥当性 : つけたい学力に対応している  
本質的な問い合わせ・永続的理解が明確である
- ②真正性 : 現実世界で試されるリアルな課題である
- ③レリバンス : 生徒の身に迫り、やる気になる課題である
- ④レディネス : 生徒が背伸びをすれば届く、適切な難度である

「異文化交流の起点で何が必要か」が本質だが、易しく具体的した課題を与える



# スクールツアーの様子



スクールツアーの企画・運営は1年生には適当な難度で、高い確率で成功が見込まれる（ただ校内を見て回るだけでも興味津々だから）

また、質の向上を目指すと奥が深い

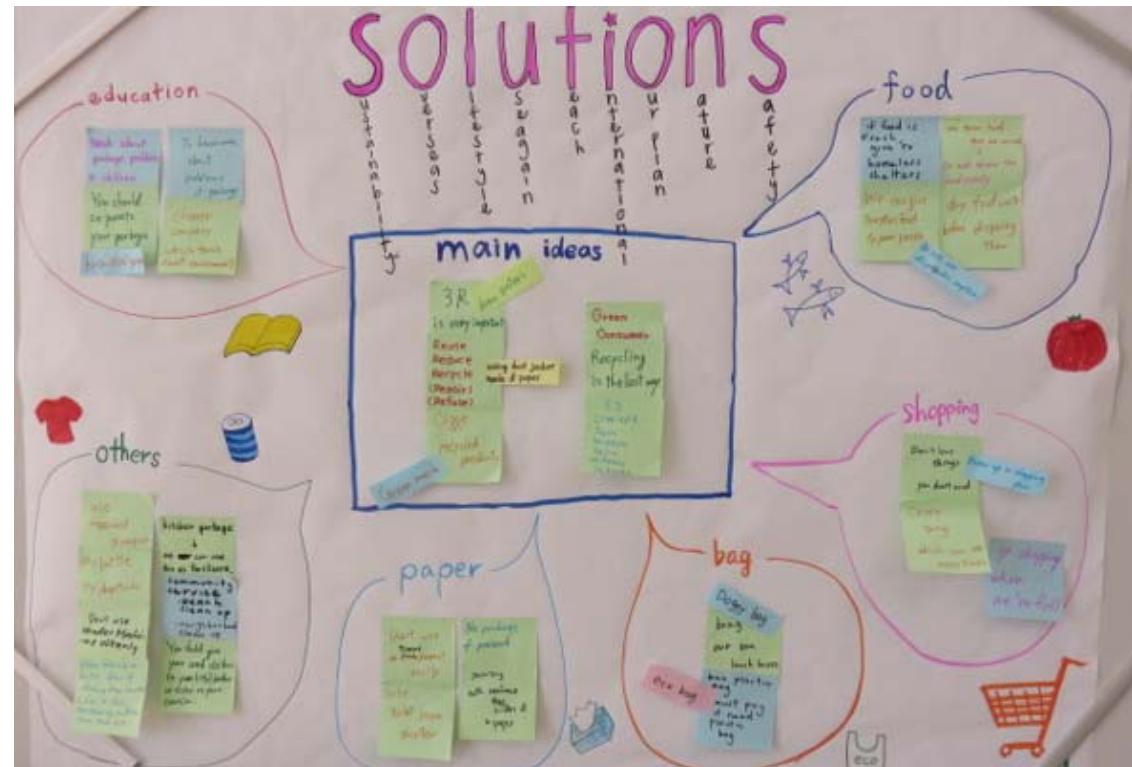
ただしグループによるスクールツアーは日本の高校生対外国人という「立場」による交流である。個対個の双方向でのやりとりにはまた別の仕掛けが必要

# 議論の質の向上

各国のゴミ事情を話しあい、ゴミを減らす提案をすることは出来た  
1年の夏としては十分な成果 ⇒ 達成感 ⇒ 次への意欲

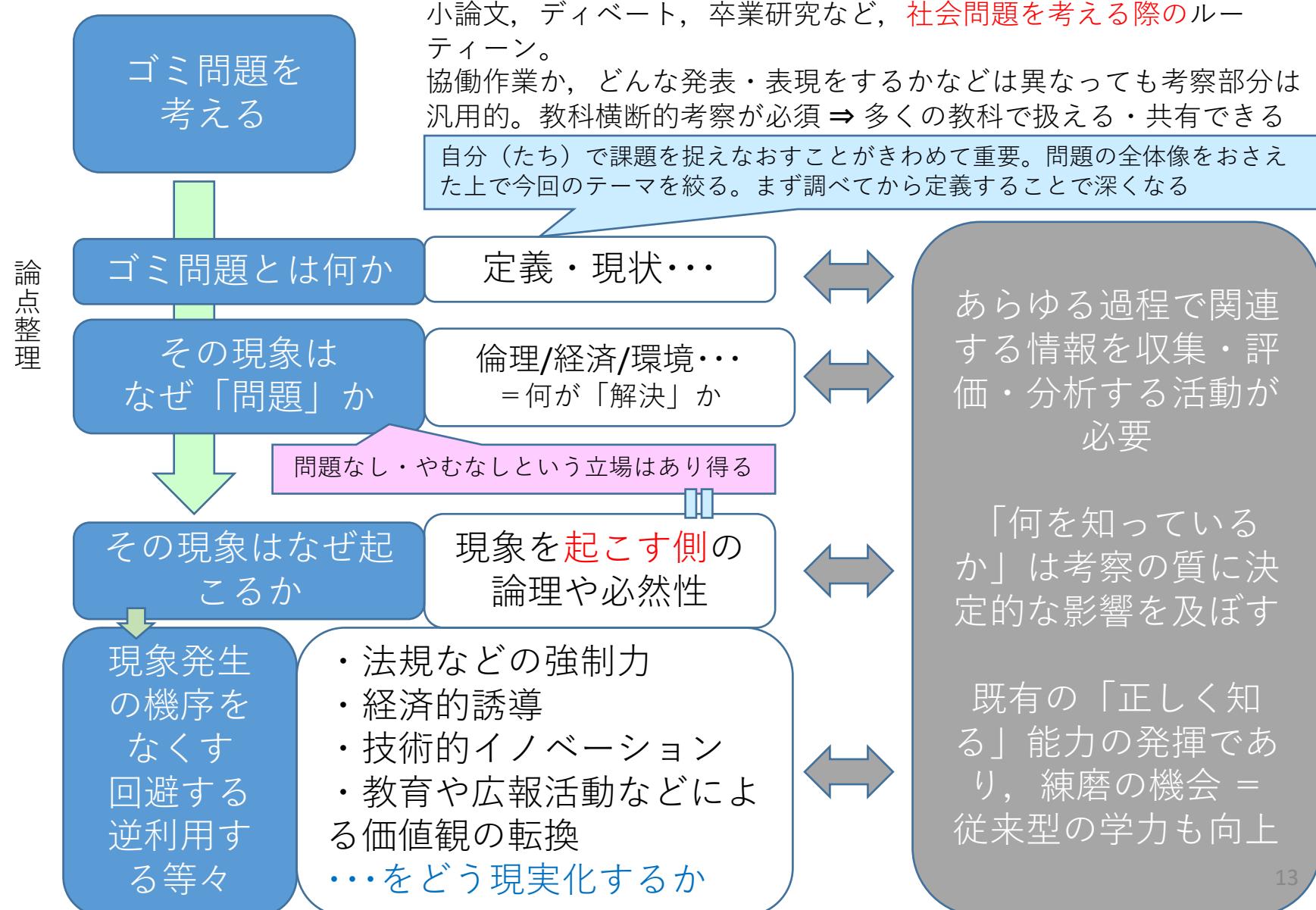


↑1日目の発表  
2日目の最優秀作→

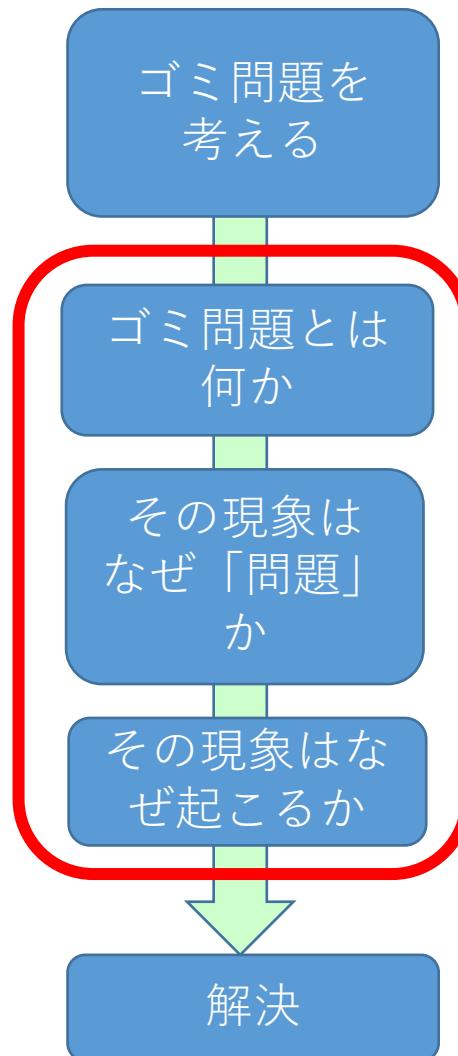


その一方「ゴミをどう減らすか」から考え始めるグループが多く  
**問題の考え方※**を学ぶことが必要  
異文化間では論点の設定だけで大きなエネルギーが必要。このワークショップ  
内で深い思考の方法を新規に教えるのは不適当 → 年間でカリマネが必要

# パフォーマンス課題「ゴミ問題」（考察部分）



「自分が意識していなかった多様な観点」を得るには  
 ①他者との交流 ②観点のカタログの参照



ゴミ問題の解決は、多くの問題と関係し、時に対立しきえする  
 SDGsは問題意識を示すし、ある程度「問題」として共通理解可能なものなので、  
 考慮すべき事象のカタログとしては不完全だが、入り口にはなる  
 多角的な視点を得るにはディベートのような賛否のロールプレイも常用

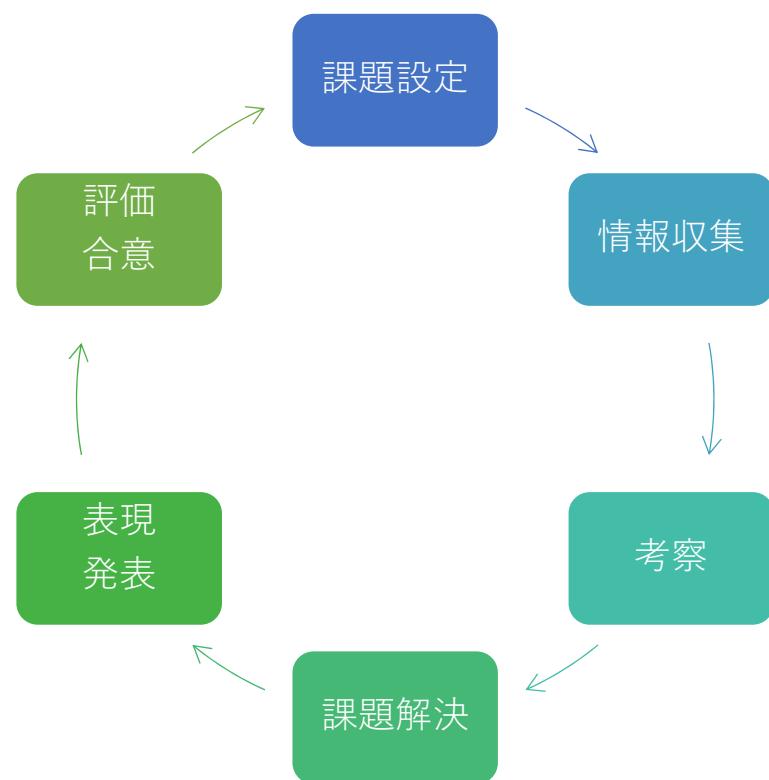


# 課題研究の繰り返し

課題発見・解決学習は以下のサイクルを繰り返しながら深めていく。

サイクルの6つの要素それにノウハウがある。通常の教科学習は、部分学習（要素1つの取り立て）とも捉えられ、サイクルとの連関を意識するなら、年中全教科で課題発見・解決学習（とその部分的要素）を行っている。

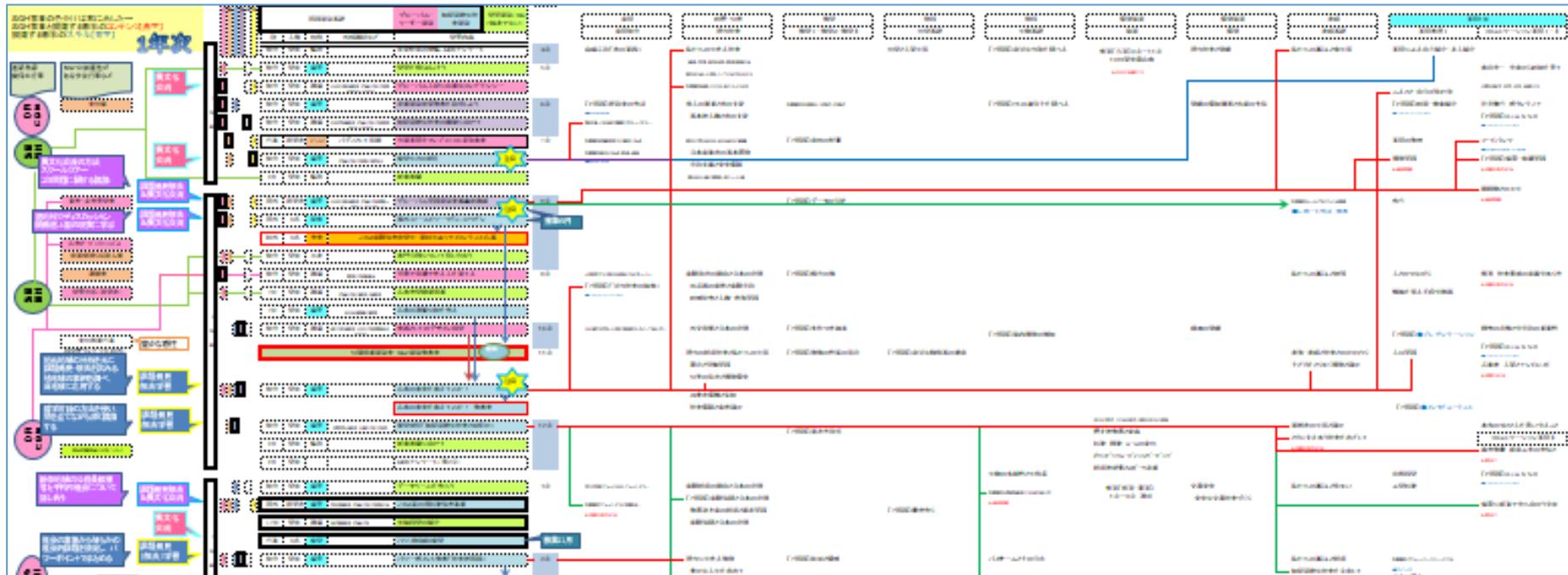
右表は総合的な探究の時間（1・2年次）の流れ



基礎知識	学問調べ（レポート発表） ジグソー法で学問領域を調べる
情報収集	新書考察（レポート発表） 興味に基づき新書を読み、共有する
自己省察	グローバルリーダー研究 自身のコンピテンシー評価含
基礎概念	デザイン科学講演 社会的課題発見解決の理論と実例
課題発見解決	ひろしまの未来を考える (グループでポスター発表)
情報収集	データベース作成 新聞記事などから手持ち資料を作る
課題発見解決	社会的課題の p p t レポート (個人で p p t まとめ)
基礎概念	アカデミックスキルズ 研究の基礎的概念、手法の習得
情報収集	プロフェッショナル探究 大学・行政・企業等への訪問
課題設定	ハワイ大学での対話 興味ごとのグループで S D G s 対話
課題発見解決	卒業研究 (個人・自由テーマ・ p p t )

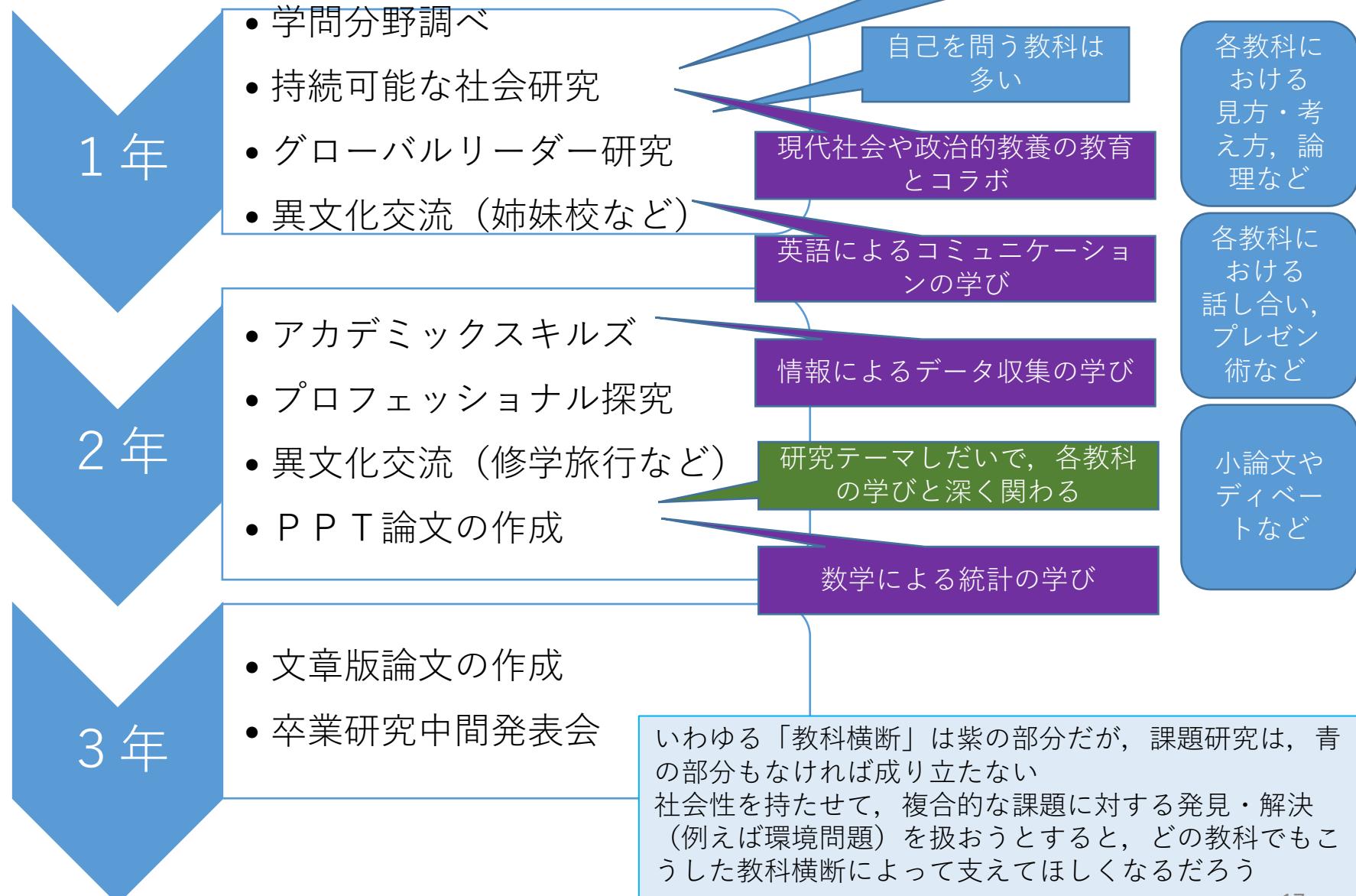
# 教科横断の必要性

ゴミ問題の事前学習を家庭科に依頼。  
外国人とのコミュニケーションは外国語科に依頼。教科横断は必須。



教科としても学びを深めたり実践したりするチャンス

# 課題研究の教科横断大小



## ①夏季集中講座のデザイン 海外で議論できる生徒の育成 のまとめ

「実際の場面で働く力を持つ」ためには

- ① 実働の機会を何度も配置する必要がある
- ② 基本的なノウハウは教える必要がある ※方法の開発
- ③ また、意欲や態度の醸成なくして力は発動しない
- ④ 必要な知識・技能のため他教科の協力を求める

つまり、カリキュラム・マネジメントが必須である



オーストラリア研修でのディスカッション

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM 講演会  
**教育改革の先行事例としての S G H**  
グローバル社会に開かれた、資質・能力ベースの、課題研究

広島県立広島高等学校 学校経営担当主査 小笠原 成章

**I 取組事例**

- ①夏季集中講座のデザイン 海外で議論できる生徒の育成
- ②卒業研究のデザイン 知的主体として生きる生徒の育成

**II 資質・能力ベースの学びへ**

**III 広島高校の S G H としての取組**

**IV 課題研究のカリキュラム・マネジ**

**V パフォーマンス評価**

**VI 海外研修**

**VII 学校設定科目「グローバルエクスプレッション」**

課題研究の集大成  
1年間・個人研究・自由テーマ

# I 取組事例 ②卒業研究のデザイン

## 知的主体として生きる生徒の育成

SGH以前の卒業研究	SGH以降の変更
個人研究・自由テーマ	同左
2年9月～3年7月で論文	2年9月～3月でパワーポイント 3年4月～7月で論文（同テーマ）
2年9月に研究を解説する大学教授講演を1度	講演を廃止。2年1学期で研究と関わる知識・技能の授業。副読本『アカデミック・スキルズ』（慶應義塾大学出版会）
教員による指導	大学院生による指導2回を追加
卒業研究中間発表会で高校全體を前に8人程度が発表	卒業研究中間発表会に小グループ発表を追加。下級生に対するレクチャー含
論文完成+感想文で終了	自己評価アンケートと後輩に向けた研究マニュアルを追加
完成論文は図書室で閲覧可	デジタルでも閲覧可（参照しながら作業可）

SGHの卒業研究では「研究」である（先行研究を踏まえる、新規の要素を含む=調べ学習ではない）ことを強調。引用と自説の区別を厳重注意

学びの捉えを変えたことによる強調

## なぜ「卒業研究」をするのか

学習指導要領解説【総合的な探究の時間編】にある

社会への出口に近い高等学校が、初等中等教育の縦のつながりにおいて総仕上げを行う学校段階として、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、自ら課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することが求められている。（10頁）

…ことに対する、最もストレートな具現化（の1つ）が卒業研究である。

広島高校の卒業研究は、

- ・個人で、約1年間（2年の9月～3年の7月）行う
- ・生徒個々の興味関心に基づく自由テーマの探究活動で
- ・研究論文を書き上げるものである
- ・学術論文と全く同じ厳密性は要求しないが、「研究」する姿勢を求める

学術的な研究は、その評価・検証制度も含めて知のモデルだと考えている

生徒に求めたい「研究」のマナー

- ①先行研究（既に示された問題意識・知見・方法）を踏まえて
- ②自分の問題意識（自分の生き方）に基づき
- ③テーマ設定（課題発見）をし、論理的に研究を進める（課題解決）
- ④この研究によって何らかの新たな発見（創造）がある
- ⑤研究結果を公にし、その妥当性について論議する
- ⑥次の研究へ

先人の営為に敬意を払い・批判する  
既存の「解」から前進させる  
自身の「解」も更新される

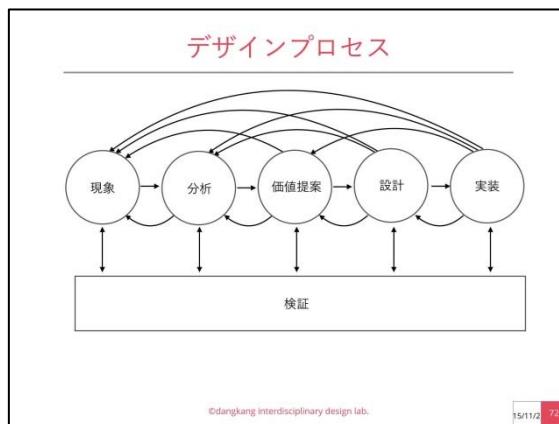
知的な主体として生きる

## 卒業研究の意義 その2

卒業研究を「研究」にするのは過程である  
その支援には、研究過程のリアルタイムでの可視化が必要

- 「研究とは何か」を大学に質問した際に、共通した回答  
**「研究では、最初の見込みとどれくらい違ってくるかが勝負」**
- そもそも今の教育改革は「先行き不透明な社会にどう対処するか」という危機感から出発したはず
- 最初に完璧な計画を立ててその通り遂行できるのは、分かり切った世界だけ。計画通りの完成を「成功」と思う価値観をこそ乗り越えさせたい

修正や再計画を繰り返しながら挑戦し続ける力を求めたい



「答えのない問」はその実践に必要で、「みんな違ってみんないい」という一回目の結論を出して終わるのはもったいない。自分の「常識」や思惑を相対化しながら、「よりよいもの」を求める粘り強さを育てたい

【余談】生徒は容易に他の意見を認める態度を示すが、それがダイバーシティなのか「自分とは関係ないからどうでもいい」のかは考えどころ

# (中間) 発表会 = 議論・検証の場の重要性

自分の誤りを指摘できるのは他者／最終発表会だけでは不足

- 「発表して達成感を得て終わる」のはもったいない。
    - (双方が) 自分の思い込みを正される場
    - さらに深い次の展開に十分な時間が必要
- 充実した議論 = 建設的な反論 = 批判的思考力
- 発表の場での批判は改善提案であることが必要
- 人のテーマで研究を提案する (簡易的な創造演習)



SGHの対象であり、総合が2単位あったグローバルコースの生徒より、1単位のスタンダードコースの生徒の方が、発表会の効果が高い。発表会を機会に頑張る部分が大きいからか

② 発表者としてこの行事で伸びたと感じるコンピテンシー

%	高い志	深い知識・技能	批判的思考力	創造力	協働力	英語力	全項目計
Gコース	60.0	30.0	60.0	40.0	10.0	20.0	220.0
Sコース	50.0	62.5	75.0	56.3	31.3	0.0	275.1

③ 聴衆としてこの行事で伸びたと感じるコンピテンシー (発表者も聴衆として参加した部分について回答)

%	高い志	深い知識・技能	批判的思考力	創造力	協働力	英語力	全項目計
Gコース	46.5	66.2	76.1	19.7	2.8	8.5	219.8
Sコース	40.6	67.8	69.2	28.7	14.0	7.7	228.0

この表は最終年度のSGH  
報告書73頁より

大多数が批判的思考力を伸ばした感覚を持ったのに対し、創造力は低めで、発表者の方が聴衆より新しいアイデアを得た感触を持つ（何に創造を感じたかはいろいろあろう）。発表会における創造力の發揮を伸ばしたい。

# 研究する力をつける 課題研究の流れと卒業研究



- 学問研究
  - 持続可能な社会研究
  - グローバルリーダー研究
  - 異文化交流（姉妹校など）
- アカデミックスキルズ
  - プロフェッショナル探究
  - 異文化交流（修学旅行など）
  - PPT論文の作成
- 文章版論文の作成
  - 卒業研究中間発表会

①社会についての理解

②自己の省察

③学問や研究についての学び  
が繰り返されて、後半の  
卒業研究に結実する

①社会についての理解は

- (1) 模擬的な政策選択
- (2) 地域課題の解決に関する  
ポスター発表
- (3) 社会的な課題を発見し  
PPTで発表
- (4) 地元地域を訪問し、「プロ  
フェッショナル」に課題発見  
解決などを学ぶ

授業との関連は前述の通り。  
海外研修も卒業研究と直接的な  
関連がある

# 研究の深度を追究する

前提	<p>社会的な視野を持った研究をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接社会的課題を扱う</li> <li>・または、自分の研究の社会的意義を認識する</li> </ul> <p>どれだけ「自分ごと」として本気でやるかが深度を大きく左右</p>
目標	知の総合化を図る主体的な学習者を育成する
形態	<p>前半（高2の終わりまで）ではパワーポイントで作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめシート構成で研究の標準的な流れをガイド</li> <li>・常時研究の進捗状況を「見える化」する</li> </ul> <p>後半（高3の夏まで）はPPTを補完・発展させた文章で作成</p>
支援者	<p>教員：相談・評価、全体のスケジュール、外部連携</p> <p>大学院生：学術的な観点から、研究計画や着地への指導</p> <p>生徒：常時疑問を投げかけあう。発表会での相互批判</p>
指導	<p><b>【情報管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報と、自分の考えたことを峻別する</li> <li>・先行研究などを批判的に理解し、吟味する</li> </ul> <p><b>【思考法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず定義や本質をよく調べ、捉える</li> <li>・先行研究を踏まえた研究をする</li> <li>・研究分野ごとの見方・考え方従い論証する</li> <li>・調べ学習ではなく、創造（知見の結合）する</li> </ul>

# パワーポイントのテンプレート(全12枚)

1 題名 (HGゴシックM 44p)  
副題 (HG明朝B 24p)  
〇年〇組〇番 〇〇 〇〇

2 この論文は、～ようとするものである。  
(見出しは基本HGゴシックM 28p～32p)  
論の構成は以下のようになっている  
(本文は基本HG明朝B 28p)  

- ・研究の動機
- ・【問題となる事象】→【対応には自分の研究に合わせて具体的に】
- ・【問題設定】
- ・【先行研究批判・事象の分析】
- ・【問題解決のための仮説の提示】
- ・【仮説の検証・実験】
- ・【解決策】
- ・まとめ

3 研究の動機：  

- ・私は～と考へている。
- ・なぜなら～だからである。
- ・今日は～と関連して～について研究したいと考えた。
- ・なぜなら私が研究する～は、～という意味で～には欠かせないからである。

★可能なら日頃の授業や校内外の学びとの関連も書いてください。

4 ○○○（自分が扱おうとする具体的な事象などを紹介する。こういうことがある。こんな問題があるなど）  

- ・本文写真や引用文なども使って良い。
- ・引用元のアドレスなどは表示する。
- ・新聞記事だと何新聞の何年何月何日何面か

★テーマによってはこのシートは不要

6 このことについて、既に分かっていることを先行研究からまとめる  
～について、○○○はこう述べる  
★研究者名「解説文」見次第 何年何月何日  
★他人の発表であることをデザインを分ける(1枚まるまる2枚)(ツールバーの「デザイン」から挿したスタイルに適用する)

8 解決法の仮説を立てるための考察  
 ◆先行研究ではこういうことまで分かっているわけだが、では自分は何を、どうやって研究するのか  
 ◆考察  
 ①他のテーマも考えられるが△△だから○○の方が重要だ  
 ②実験の対象はAとBとCと…どれが妥当だろう  
 ③本当はこういう実験がいいのだが、条件的に困難か  
 ★この内容が不要な研究の場合、このシートは削除してよい  
 ★大学院生や先生と「テーマ相談」する際の大きな柱ではある  
 解決の仮説

自分の考察と引用はシートのデザインを分ける

研究するための予備的考察や注意のシート、メモも含む

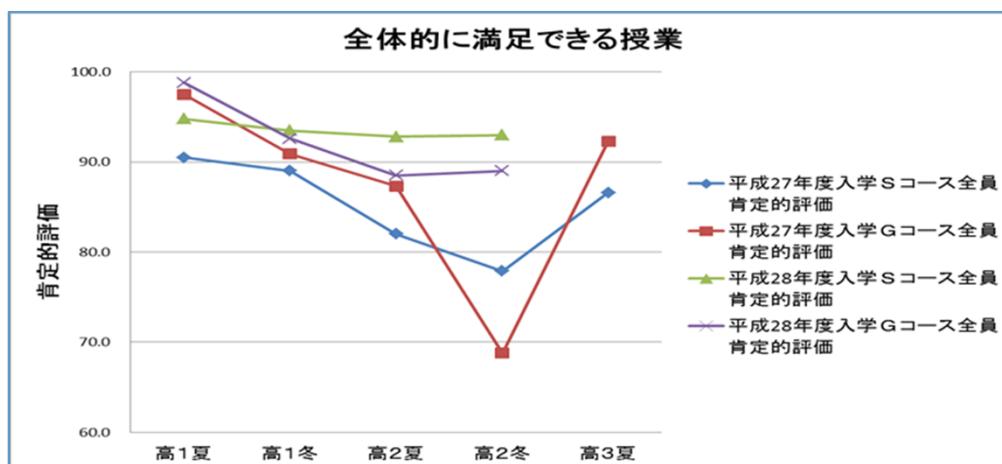
# 一人でやると同時に、一緒にやる

グループワーク	個人研究
<p>分担してやるので</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○協働力がつく</li> <li>○広範な調査ができる大テーマを扱える</li> <li>○プロジェクト学習が可能</li> <li>×メンバーに合わせるため妥協も必要</li> <li>×分担により一人は部分を担当</li> </ul>	<p>一人ですべてやるので</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>×対人的な力は伸ばしにくい</li> <li>×出来ることは限定的</li> <li>○自分の興味を追究できる</li> <li>○研究のあらゆる計画、実践を自分でやるしかない</li> </ul>

すべての生徒にテーマ設定や研究計画、創造力の発揮などを求める場合は個人研究を選ぶ。協働力の育成や、社会的実働を経験させるのが目的ならグループワークを選ぶ。

※二者択一ではなく、3年間で両方できるように配置したい。

広島高校はキャリア教育的な意義も含めて個人研究を最後に配置



S G H 初年度の生徒は卒業研究に入ると授業満足度が下がった。この年は研究を本当に1人でやっていたので、2年目は生徒間の発表を増やし、3年目からは同じ研究分野の生徒をグループ化して、常時相談することを推奨している。研究の初期段階は暗中模索だから、「満足」しないのが当然とも考えられるが、共に悩む仲間が存在すると心の支えになる。現在は生徒間の交流を批判的思考力を働かせる場面としても積極的に推奨する。

# 卒業研究テーマ一覧（14期生グローバルコース）

理学 7	数学	黄金比は本当に美しいのか				平和学	平和	Changing education to create more chances for Japanese to visit Pearl Harbor
	数学	無限級数の収束条件について				日本語	接尾辞「み」の用法の変化	
	数学教育	より良い数学の授業方法				日本文学	短歌で読み解く古代と現代の自然観の相違	
	物理	摩擦力に作用する条件—重力のほかに何があるのか—				日本文学	「山月記」の主題を探る	
	生物	体内発電で医療機器は動かせるのか				国語教育	日本の高等学校における俳句教育の枠組みの変換と新しい俳句授業の提案	
	環境	Predation of Microplastics of Fish in Seto Inland Sea				英語教育	他国から学ぶ日本の小学校英語教育	
	環境	The Effect of Microplastics to Clams				ドイツ文学	なぜ日本人は『モモ』を読むのか	
農学	農学	ミニトマトにおける屋内での水耕栽培の成長と照射時間との関係性				英語教育	Foreign language teaching for globalization ~Potentiality of second foreign language teaching~	
工学 9	エネルギー	家庭における太陽光発電システムに蓄電池を導入すべきか否か。				比較文化	The fusion of different cultures	
	エネルギー	木質ペレットによる発電				生理	使うべきチヨークの色について	
	エネルギー	振動発電の実用化に向けて				生理	聴覚と集中力の関係について	
	エネルギー	垂直軸風力発電における風レンズの応用—2枚の集風体の角度と風の加速—				生理	ストレスへの対処法	
	航空宇宙工学	宇宙エレベーターと宇宙ゴミの衝突の際に宇宙エレベーターは破壊されるのか否か—衝突の時に機体が破壊されない最小の断面積の利用—				医学	Relationships with yips and environment	
	人間工学	教室いすの改善				医学	心の病の新しい治療法の提案	
	建築	Suggestion of a Functional House for Use in Developing Countries				医学	理想的な終末期医療とは	
	情報	渋滞メカニズムの解析—交通流シミュレーションを用いた分析—				医学	風邪の治療法	
	情報 農学	Raspberry Pi を使った水耕栽培				医学	スポーツ障害治療のためのリハビリテーションロボットの提案	
社会学 17	地域	過疎地の医療				医学	The Proposal of Doctor's Appropriate Attitude at Medical Interview - Considering the Aging Society	
	地域	医療 広島中央医療圏における NICU の課題研究				医学	UV Protection in Regards to Sunglasses of Japan	
	地域	医師の偏在問題				薬学	効果的な服薬指導方法の提案	
	地域	過疎 三原市大和地域を例とした中山間地域への若い世代の定住促進				スポーツ	4 スタンス理論の運動への応用	
	地域	過疎地における高齢者の健康的な生活と地域活動について				動作	けん玉未経験者が「とめけん」を簡単に成功させるための身体的特徴	
	地域	Community Currency in Transition Town; focus on the possibility of life style reforms				競技	初心者から学ぶ三段跳び	
	地域	人口維持を目的とする新たな事業の提案				生化学	広島高校普通教室における有効的なサーチュレーターの使用方法	
社会学 17	社会保障	いま子どもの貧困を考える 一子どもの貧困と貧困鎖鎖の緩和に向けて一				芸術学	発表に効果的なパワーポイント作成法の提案	
	社会保障	東広島における高校生を通じた待機児童の解決策の提案				学習	勉強面における記憶と色の関係性	
	防災	地震後の生活課題解決に向けた発展型料理活動の提案				学習	単純計算が記憶力に与える影響	
	防災	高校生が普段から使える防災グッズの提案				学習	学習をする際の適切な BGM	
	防災	持続的に防災意識を向上させるためのワークショップの提案				学習	青色が学習にもたらす効果	
	防災	The relationship between the rates of mutual assistance and features of local communities				教育学	集中力と運動 運動して集中力を上げる効率の良い方法の提案	
	多文化共生	広島のグローバル化構想 一移民一				教育方法	津波防災教育をもとにした災害全般に対する防災教育の提案	
法学 3	多文化共生	中国語・中国文化学習の方法の提案 一在日中国人高校生を対象に一				教育方法	今後求められる教育のあり方 一社会問題に当時者意識を持った人材の育成一	
	多文化共生	Permeation of Culture				教育方法	生徒の学習意欲を高める教師の言葉かけ	
	多文化共生	An Analysis of Student's Abilities to Accept to Different Cultures, and Proposition to Improve Them. -With Crisis Management-				教育方法	Introducing social skill training into intercultural communication	
	商学 2	行動経済学を使った規格外野菜のマーケティング				校則	Relation between Strictness of School Rules and Deviation Value of High School -A High School with a High Deviation Value Has Loose School Rules Right?	
	観光	Sustainable tourism Developing local economy				心理	夢と記憶の関連性	
	歴史学	壬申の乱の検証 一大海人皇子は反旗を翻す必要があったのか一				心理	表情の読み取り方左右の空間認知の差から考える	
	法学 3	他国の憲法を日本国憲法改正の理由づけに用いることの適正性				心理	会話において好印象を与える非言語表現	
心理学 7	法学	農家が行う野焼きに対する違法性阻却の有無 一煙の悪臭への受容限度一				心理	The Things Which Affect Improving People's Attitude to Environmental Protection and Having Them Put the Attitude into Practice	
	法学	モラルと法律の衝突				心理	人間は応援でパワーアップするのか 一応援の有効な活用方法の提案一	
						心理	日本とノルウェーの刑務所	
						心理	将棋の棋風と性格	28

# 学びについて学ぶ

- 題材として「学び」を取り上げる場合がある

人気の研究テーマに心理学や勉強法がある。「自分」に興味を持ち研究対象にする生徒がいるのは当然である。「学び」をテーマにした研究は学習法から教育理念まで幅広いが、生徒に取って最も「自分ごと」のテーマの1つだし、実践につながりやすい。

- 後輩に教えることを意識する

下記研究マニュアルや、卒業研究中間発表会などで、学び方を人に教えることを意識させることによって、学びに対し自覚的になる

- 最終的な作成物を「研究マニュアル」とする

全ての生徒に卒業研究終了後に後輩に向けた「研究マニュアル」の作成を義務付けている。高校の卒業研究の目的は、学術的に意義のある新説の発表ではなく、研究する姿勢や方法を身につけることである。

自身の成長を見詰めさせるために感想文も課しているが、研究の方法論をメタ認知するには、人に教えるためのマニュアルを書くのがよい。このマニュアルは実際に次年度以降の生徒が参考にできるようにデジタルで常時閲覧可能にしている。  
※全て閲覧可。よいマニュアルは閲覧しやすくインデックスをつけて保存

# 卒業研究マニュアルの例 Gくん

卒業研究タイトル 農山漁村を活性化するために求められること—高知県安芸郡馬路村を成功事例として—

卒業研究キーワード 農山漁村 活性化 森林鉄道 ゆず 日本遺産 国重要文化財

## 1 使用した先行研究

(1) 「地域ブランドの事例調査と特性の分析—高知県安芸郡馬路村を成功事例として—」林恵子（名古屋工業大学大学院）

(2) 地域資源を活かした食料品の販路拡大に関する調査研究～広域的事業展開で域外への販路拡大を図る～

「ゆず加工品で村を丸ごと売り込み,地域ブランドを構築! (馬路村農業協同組合)」独立行政法人 中小企業基盤整備機構経営支援情報センター

## 2 先行研究を探す際に苦労したこと・先行研究を探す際のアドバイス

研究テーマや分野によって先行研究の有無や数は大きく異なると思うが,論文の検索ができるCiNiiやJ-STAGEで様々なキーワードで調べてみると探していたものが発見できると思うので,自分が求めている内容のキーワードだけでなく,それとは違った視点のキーワードを検索してみることをお勧めする。また,研究テーマについて大まかな調べ学習(検索)をしてから先行研究を探すようにすると,自分が思っていたものよりも多くの先行研究を入手できると思う。

## 3 実験・調査の概要, 実施する際に苦労したこと・実施する際のアドバイス

研究対象とした馬路村に関しては,情報量が多く,自分に必要なのがどの情報で,それをどのように自分の研究に生かせば良いかという研究の大まかな流れを決めるのに一番時間がかかった。逆に言うと,その情報をどう扱うかという切り口次第で研究の方向性は大きく変わったと思う。また,研究の根本にある問題点,たとえばなぜその研究をすることにしたのか,現状としてはどうなのか,何を求めて研究するのかという点についてしっかり検討し,それを見た人にはわかりやすいように表現するのにも苦労した。これに関しては,国の機関や公の研究結果など合理性がある情報を参考資料とするとまとまりのある研究に近づくと思う。

## 4 考察・結論の概要, 考察・結論を出す際に苦労したこと・実施する際のアドバイス

様々な状況や出来事をもとに自分に必要なことを抽出して,それをまとめるのは時間がかかった上,それをどのようにまとめると良いかはかなり悩んだ。研究について,ある程度情報が集まってきたときに,どの順でどのように関連付けて整理すると良いか考えるとかなり有効なのが,パワーポイントの存在である。自分の研究について概要をまとめ,すぐに順序が変えられるため整理しやすく,後から卒業研究として文章化するときにもかなり役立った。加えて,6月の中間発表会でポスター発表する機会があったが,その時に20枚を超えるパワーポイントを6枚にまとめた時には,自分の研究の核となる部分がどこで,何を一番伝えたいことについて再確認する機会となった。自分が何について研究したいと思っていたのかよくわからなくなったりしたときには,研究を限界まで絞って核が何か確認し,もし核となる部分がはっきりしないと思った時には,なぜそのテーマで研究しようと思ったのか見直すようにすればいいと思う。

## 5 卒業研究全体に関してアドバイス

自分の興味がある分野についてある程度自由に研究できるので,自分の興味が固まっている人はしっかり考えを深め,まだ将来何がしたいのか固まっていない人は,何だったら楽しいと思えるか,もっとやりたいと思えるのかしっかり悩み考える機会にしてほしい。時間が限られているので,自分の思うところまで研究を深められないかもしれないが,周りのメンバーと支えあいながら楽しみながら新たな考え方や知識を得る機会にしてほしい。

## 6 自分の研究は後輩が受け継いで発展させる余地がある・ない

⇒「ある」場合, 発展させていくべき内容

今回の研究では馬路村での成功した原因を整理していったが,実際のところ同じように活性化を目指して取り組んだにもかかわらず,うまくいかなかった地域やなかなか伸び悩んだところもあった地域も数多くあるので,そことの違いやその地域の活性化に必要なことについてもまた違った視点から考えてほしい。

# ケーススタディ Hさん（14期）の場合

学年	月	学び形態	学びの内容など
1	7	講演	国際協力・留学生との対話
	8	WS	夏季集中講座
	10	講演	グローバルリーダーとは
	11	講演	デザイン科学とは
		WS	地域課題の発見・解決
	1	WS	「持続可能な社会」とは
	2・3	演習	社会的課題の発見
2	3	海外	オーストラリア研修
	7	FW	東広島市フィールドワーク
	10	海外	ハワイ研修
	9～	論文	論文作成（高3まで）

2つの海外研修では食品廃棄をテーマに研究

FW先で環境問題に取り組むハワイの学校に興味を持つ

卒業研究テーマを「これからの教育」に変更  
今までの自分の学びを分析  
志望学部を教育学部に変更

教育系の志望を持つ生徒が自分のこれまでの学びを振り返り、  
将来への課題意識を持つのは最もリアルな研究 …だからと言って皆を教育系志望にするわけにもいかないが

## Hさんの卒業研究の感想 強調は引用者

私は卒業研究が自分自身を大きく成長させてくれたということを実感している。研究開始当初は、自分のやりたいことが不明確で、自身の将来についても真剣に考えてていなかった。そのため、研究に意欲的に取り組むことができていなかったように思う（卒業研究の必要性までも疑っていたほど）。しかし、研究を通じて自分が高校生活で経験してきたさまざまな感情や出会い、学びのひとつひとつを振り返ったことで、自己と向き合う時間を持つことができた。それは私の研究が自己的経験を軸としたものであったからに違いないが、卒業研究自体がそのように自分の興味や考えの根源を探るきっかけを提供してくれる面を持っているとも感じる。私は卒業研究がなかったら、「なぜ教育を学びたいのか」「なぜ大学に行くのか」という問い合わせに対する明確な答えが持てないままだったと思う。卒業研究は私の視野をぐんと広げてくれたうえ、思考する楽しさや重要性も教えてくれたのだ。それまでは気にかけたことのなかったような身近な物事や社会問題に目を向け、自分が理想とする社会や自己像を考える機会になった。そして自分の中の世界が広がった。まだ将来の具体的な夢まで決まったわけではないけれど、研究開始以前に比べれば、確実に自分の目の前の道が開けているような感じがする。

卒業研究は本気で取り組めば、必ず何かしらの形で自分を変化させてくれるものであると思っている。難易度が高くて最後まで自分の研究に納得することはできなかっただし、先が見えず苦しかった。それでも高校生活の集大成として挑戦する価値があると思うし、今ではやってよかったと心から思える。この経験を通して得られた知見を活かしながら、今後の大学生活やその先の進路においても学び続け、いずれは社会の基盤となる教育を通して日本そして世界を支えていける存在になりたい。卒業研究を完成させるにあたって協力してくださった先生方に深く感謝する。

## ②卒業研究のデザイン 知的主体として生きる生徒の育成 のまとめ

自己の在り方生き方に照らし、直接または間接的に自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、自ら課題を発見し解決していく経験をすることには非常に大きな意義がある。

- ①本当に自ら主体的に選び、取り組む学びである
- ②知の歴史や現在の広がりの中に自らの位置を探る  
また、先人から受け継ぎ後継に渡すことを意識する
- ③常に、努力して到達した位置から問い合わせし先へ進む
- ④科学的な物の見方や態度を得る  
それは自己の相対化を含む
- ⑤教科や生活の学びを統合し、使いこなせるようになる  
結局これらは「学力」の向上である以上に人づくりである。  
人づくりに「知」の側面からアプローチする。

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM 講演会  
**教育改革の先行事例としての S G H**  
グローバル社会に開かれた、資質・能力ベースの、課題研究

広島県立広島高等学校 学校経営担当主査 小笠原 成章

**I 取組事例**

- ①夏季集中講座のデザイン 海外で議論できる生徒の育成
- ②卒業研究のデザイン 知的主体として生きる生徒の育成

**II 資質・能力ベースの学びへ**

**III 広島高校の S G H としての取組**

**IV 課題研究のカリキュラム・マネジメント**

**V パフォーマンス評価**

**VI 海外研修**

**VII 学校設定科目「グローバルエクスプレッション」**

国や世界の動きを  
簡単にまとめます

## II 資質・能力ベースの学びへ

- **資質・能力（コンピテンシー）** の育成について  
国内外でさまざまな提言がなされてきた
- 新学習指導要領はこの育成に本腰を入れ3つの柱を示した
- この3つは学校ごと教科ごとに**具体化**が必要である。学びとして実践し、**検証**するための、本質の理解も方法の創案も新たな開発である
- SGHは過去5年間それに取り組んできた。この研究開発は校内で設定した目標を達成するもので、資質・能力の全国的水準と相対的な位置※を知ることはできなかった※のだが

## 知識・理解中心の教育 → 資質・能力や人（社会的な存在）を問う教育へ

**これまで提言された様々な資質・能力について（イメージ案）**

⇒ 変化の激しい社会にあって、個人の自立と活力ある社会の形成を実現するためには、どのような資質・能力が必要か。

**子どもから大人まで**

**発達段階、学校段階の特質に応じた育成**

→ 「キーコンピテンシー」（平成11年～14年OECD「能力の定義と選択」（DeSeCo）プロジェクト）  
 ・OECDが主導し、多数の加盟国が参加したプロジェクトで国際的合意。（生徒の学習到達度調査（PISA）（3年ごと）や、国際成人力調査（PIAAC）（5年ごと）で、これらの能力の一部に関する各国の状況を測定）  
 ・グローバル化と近代化により、多様化し、相互につながった世界において、人生の成功と正常に機能する社会のために必要な能力。

①～③の核となる  
**「考える力」**

①言語や知識、技術を相互作用的に活用する能力：「言語、シンボル、テクストを活用する能力」「知識や情報を活用する能力」「テクノロジーを活用する能力」  
 ②多様な集団における人間関係形成能力：「他人と円滑に人間関係を構築する能力」「協調する能力」「利害の対立を御し、解決する能力」  
 ③自律的行動する能力：「大局的に行動する能力」「人生設計や個人の計画を作り実行する能力」「権利、利害、責任、限界、ニーズを表明する能力」

**「総合的な「知」」**（平成20年中教審答申（新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～）（答申））  
 ・「知識基盤社会」の時代において、様々な変化に対応していくために必要な力。狭義の知識や技能のみならず、自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力、身に付けた知識や技能を活用して複雑な課題を解決する力、他者との関係を築く力、豊かな人間性など。

**幼稚教育、義務教育、高校教育**

**「生きる力」**  
 （平成8年中教審答申（21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申））（別紙参考1-2））  
 ・国際化や情報化の進展など、変化が激しい時代にあって、いかに社会が変化しようと必要な能力。「知・徳・体のバランスの取れた力」と定義。  
 ※学校教育法において、①基礎的な知識・技能、②これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度と具体化。  
 ①確かな学力  
 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力  
 ②豊かな人間性  
 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など  
 ③健康・体力  
 たくましく生きるために健康や体力

**大学**

**「課題探求能力」**  
 （平成10年大学審議会答申（21世紀の大学像と今後の改革方策について～競争的環境の中で個性が輝く大学～）（答申））  
 ・主体的に変化に対応し、自ら将来の課題を探求し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことができる力

**「学士力」**（平成20年中教審答申（学士課程教育の構築に向けて）（答申））  
 （別紙参考3）  
 ①知識・理解  
 専門分野の基礎知識の体系的理解、他文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解  
 ②総合的な学習経験と創造的志向  
 獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力  
 ③汎用的技能  
 コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力  
 ④態度・志向性  
 自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力

**大学院**

**「大学院に求められる人材養成機能」**  
 （平成17年中教審答申（新時代の大学院教育-国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて）（答申））  
 ①創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等  
 ②高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人  
 ③知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材

**社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行のための「基礎的・汎用的能力」**  
 （平成23年中教審答申（今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について）（答申））（別紙参考4）  
 ・「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」。

**「イノベーション創出に向けて必要な資質」**（平成19年閣議決定長期戦略指針「イノベーション25」）  
 ・「困難に立ち向かいそれを現実のものにしようとするチャレンジ精神」「既存の枠、常識にとらわれない、多くの価値観から生まれる高い志」。

**「グローバル人材に必要な資質」**（平成23年グローバル人材育成推進会議中間まとめ）  
 ・「語学力・コミュニケーション能力」「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」及び「幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと（異質な者の集団をまとめる）リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー」など。

（参考）上記のほか、これまで提言されてきた主な資質

**社会参画の観点** 人間力（平成15年人間力戦略研究会（内閣府））（別紙参考5）  
 ⇒ 「知的・能力の要素」「社会・対人関係力の要素」「自己制御的要素」の3つの要素で構成。

**社会人基礎力**（平成18年社会人基礎力に関する研究会（経済産業省））（別紙参考6）  
 ⇒ ①前に踏み出す力（アクション）「主体性・働きかけ力・実行力」 ②考え方（シンキング）【課題発見力・計画力・想像力】  
 ③チームで働く力（チームワーク）【発進力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力】

**産業人材の観点**

今回のスライドでは引用は黒枠で表示します

補文足部資料  
 文部科学省  
 (4) 教育課程企画特別部会  
 より  
 論点整理

- 文部科学省SGH専用HP  
スーパーグローバルハイスクールとは

## 文部科学省によるSGHの実施要項より「1. 趣旨」 太字・色つけの強調は引用者による

高等学校及び中高一貫教育校（中等教育学校、併設型及び連携型中学校・高等学校）（以下「高等学校等」という。）におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることとする。

広島高校の学校教育目標（H25）：知性を高め、感性を磨き、意志を鍛える教育活動を通して、国際社会に貢献できる全人的な力を持った人材を育成する。

「国際的素養」は、国内でも必要

「グローバル・リーダー」は定義しだいでは特別な人になるが、それでは生徒全員の目標にならない → リーダーとは（後述 シート16）

そもそも学校の目標と、新しい考え方のすり合わせ  
目の前の生徒全員が、「自分ごと」と思える目標である必要



## 新学習指導要領のポイント

### ①社会に開かれた教育課程

よりよい教育課程を通じてよりよい社会を作るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容を明確にしながら、社会との連携・協働によってそのような学校教育の実現を図ることを目指すものをいいます。（前文：P.15）

今回から新たに「前文」を設け、新学習指導要領等を定めるに当たっての考え方を示しています。是非ご一読ください。

### ②育成を目指す資質・能力

育成を目指す資質・能力を明確化し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間力等」の三つの柱に整理しました。また、全ての教科等の目標及び内容についても、この三つの柱に基づいて再整理しました。（総則第1-3：P.18）

### ③カリキュラム・マネジメント

子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育課程の質の向上を図っていくことです。（総則第1-4：P.18）

### ④「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

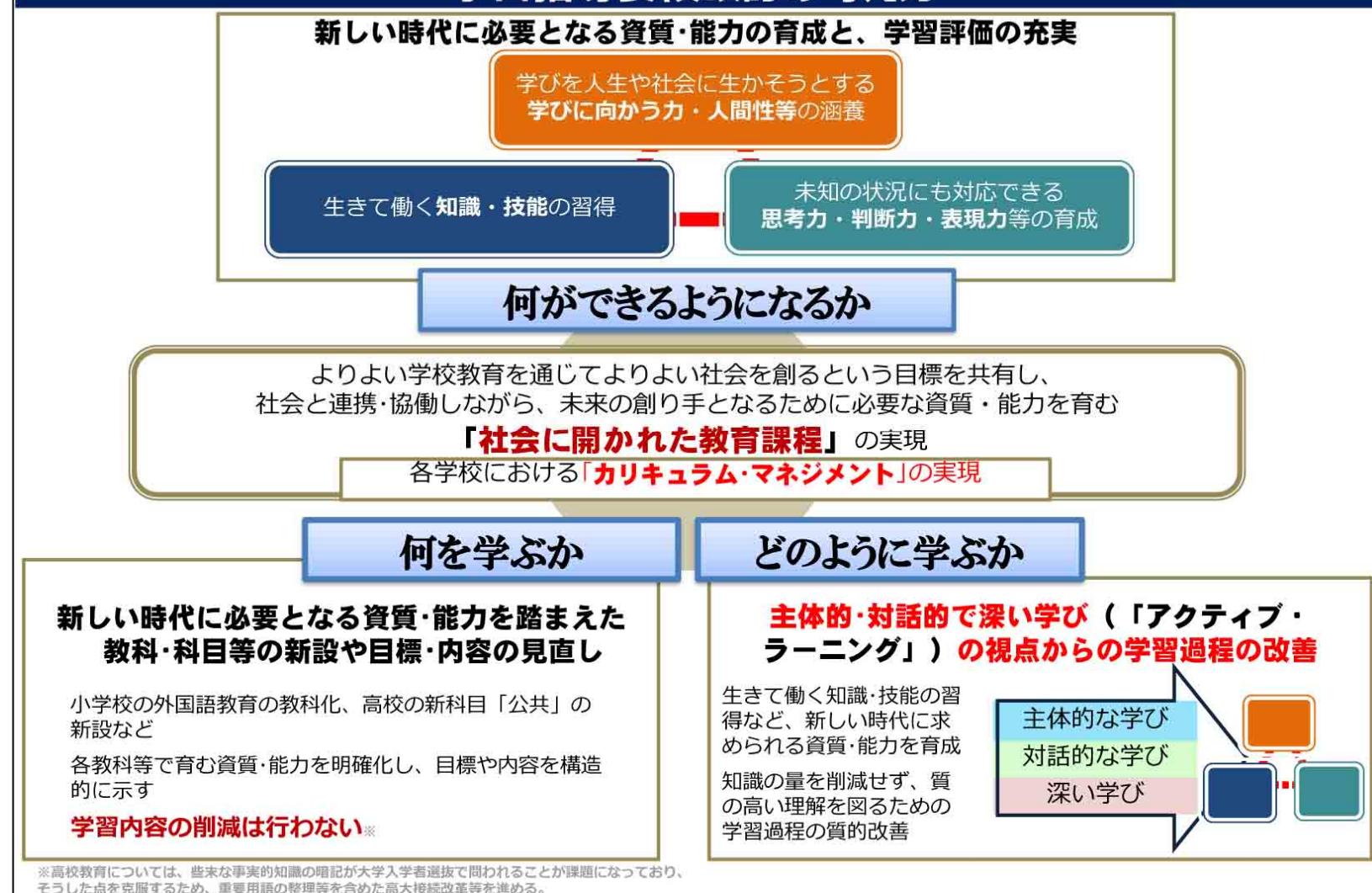
授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、子供たちの「学び」そのものが、「アクティブラーニング」で意味あるものとなっているかという視点から授業をよりよくしていくことです。（総則第3-1：P.22～P.23）

新学習指導要領のポイント①～④の流れはSGHの取組を考えた際の思考の流れと同じ。②は必然的に③④を要求する。しかし問題は具体的細部の詰め方である

広島高校の立場では①開かれる社会はグローバルなそれだし、大学や学問の世界もある

●  
ホツ改文  
イー訂部  
ンル学科  
トよ習学  
り指省  
「導H  
新要P  
学領、平  
習指周成  
導知29  
要・・  
領広30  
の報年

## 学習指導要領改訂の考え方



- ①社会的な視野から ②育てたい生徒像を立て ③伸ばすべき資質・能力を設定し ④それを実現すべく、何をどのように学ぶかを計画する。また学びの場は教室に留まらない。これらは本質的に新しいものではなく、今まで提唱してきたことを実行に移すものである。 →先行する取組がOECD

- ・「キーコンピテンシー」は実践的。学校のリアリティが問われる
- ・「観察されない（働く）力は、あると見なさない」という西洋科学流
- ・福岡の先生の言葉「学力向上策？生徒会や行事を生徒にやらせるんです。それ以外何かありますか？」

## OECDキーコンピテンシーについて

**OECDにおいて、単なる知識や技能ではなく、人が特定の状況の中で技能や態度を含む心理社会的な資源を引き出し、動員して、より複雑な需要に応じる能力とされる概念。**

**【キー・コンピテンシーの3つのカテゴリー】**

- 1. 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力**
  - A 言語、シンボル、テクストを相互作用的に活用する能力
  - B 知識や情報を相互作用的に活用する能力
  - C テクノロジーを相互作用的に活用する能力
- 2. 多様な社会グループにおける人間関係形成能力**
  - A 他人と円滑に人間関係を構築する能力
  - B 協調する能力
  - C 利害の対立を御し、解決する能力
- 3. 自律的に行動する能力**
  - A 大局的に行動する能力
  - B 人生設計や個人の計画を作り実行する能力
  - C 権利、利害、責任、限界、ニーズを表明する能力

○ この3つのキー・コンピテンシーの枠組みの中心にあるのは、個人が深く考え、行動することの必要性。深く考えることには、目前の状況に対して特定の定式や方法を反復継続的に当てはめることができる力だけではなく、変化に対応する力、経験から学ぶ力、批判的な立場で考え、行動する力が含まれる。

(出典) OECD “Definition and Selection of Competencies (DeSeCo)” を参考に文部科学省作成

171

文部科学省  
(4) より  
補足資料  
教育課程企画特別部会  
論点整理

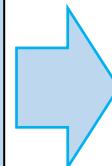
## OECD 「キーコンピテンシー」の追加要素

デザイン科学の講師がスパイダーマンの言葉※を引用していた。  
社会を変えようとするなら、自分たちのしたことに「責任」をとらなければならぬ。その覚悟や配慮なしに提案するのは「現実的」ではない

### DeSeCoプロジェクト

#### 【2003年最終報告】

- ・社会的・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力
- ・多様な社会グループにおける人間関係形成能力
- ・自律的に行動する能力



### Education 2030 プロジェクト

#### 【2015年開始】

左の3つに加えて、

- ・新たな価値を創造する力
- ・対立やジレンマを克服する力
- ・責任ある行動をとる力

文部科学省 教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料（4）より抜出

OECD東京センター「OECD Education2030プロジェクトについて」よりまとめ

日本の場合、得た資質・能力が進路とどうつながるかという問題も。  
広島高校は「普通の受験勉強」との相乗効果を狙った

## 国際バカロレア（IB）の学習者像

（出典）国際バカロレア機構HP「IB Learner Profile」より文部科学省作成（2014/11/20アクセス）

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球と共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界の構築に貢献する人間を育成します。IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

### 探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

### 知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い知識を探究します。地域社会やグローバル社会の重要な課題や考えに取り組みます。

### 考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

### コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものを見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

### 信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考え方と強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

### 心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見いだし、その経験を糧に成長しようと努めます。

### 思いやりのある人

私たちは、思いやりと共に感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

### 挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考え方や方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

### バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

### 振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考え方や経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティーの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。①

文部科学省（4）教育課程企画特別部会 論点整理

## これからの教育課程の理念

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

### ＜社会に開かれた教育課程＞

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を通してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの中学生たちが、社会や世界に向かい合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

●  
課解文  
程説部  
の等科  
理念)「社  
会H」にP  
よ開  
りか平  
れ成  
た29  
教・  
育30  
課年  
程改  
訂学  
習指  
導要  
領、  
これ  
か  
らの  
教  
育

社会性が出発点だが、新しい価値の創造は**旧来の価値の破壊**でもある。

既存の社会的な枠組みに適合する「便利な働き手」を目指すものではない。

上の文科省の説明では①に目的を社会と共有するとあるが、その**発信役は新世代**であり、「共有」は刷新の果てにある。価値観の違う旧世代人（教師のような）に反感を持たれながらも説得しきること。「言うことを何でもよく聞いて従う」だけの生徒では達成できない。

## 国連の2030年持続可能な開発目標（SDGs）

持続可能な開発目標（SDGs）として知られる期限を定めた測定可能な17の目標は、「2030アジェンダ」の中核をなす。169のターゲットと230の指標からなり、人間と地球の「やるべきことのリスト」であり、持続可能な未来のための青写真である。開発目標は、持続可能な開発の社会、経済、環境の側面を統合したもので、**互いに独立したものではなく、統合された方法で実施されなければならない。** ※強調は引用者

- 目標1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- 目標2. 飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- 目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- 目標4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する
- 目標5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う
- 目標6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- 目標7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
- 目標8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
- 目標9. 強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
- 目標10. 各国内および各国間の不平等を是正する
- 目標11. 包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する
- 目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する
- 目標13. 気候変動及びその影響を軽減するためにの緊急対策を講じる
- 目標14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
- 目標15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
- 目標16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- 目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

「よりよい社会づくり」のとりあえずのリストがSDGSであるが立場によっては強烈な反対もあるだろう

### III. 本校のESDの現状

#### 1. アンケート調査（結果）

70%以上: 黄色  
50~70%: 黄緑  
40~50%: 水色

問4(文系)	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	地学基礎	保健	体育	芸術	家庭	情報	総合
	現代文	古典	数学	○英語	□	世界史	日本史	地理	倫理	政治・経済	現代社会	基礎物理基	基礎化学基	生物・生物基							
学習していない場合は×印 (○印は全員回答)	○	○	○	○	○	○					○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	
1 貧困をなくそう	11.1%	2.8%	0.0%	72.2%	97.2%	11.1%	9.5%	57.1%	8.3%	33.3%	19.4%		0.0%	2.8%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	30.6%
2 飢餓をゼロに	5.6%	0.0%	0.0%	52.8%	97.2%	13.9%	9.5%	28.6%	8.3%	16.7%	16.7%		0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	2.8%	0.0%	8.3%	0.0%	27.8%
3 すべての人に健康と福祉を	5.6%	2.8%	0.0%	19.4%	61.1%	16.7%	9.5%	21.4%	16.7%	58.3%	41.7%		0.0%	2.8%	0.0%	66.7%	8.3%	0.0%	27.8%	0.0%	8.3%
4 質の高い教育をみんなに	5.6%	2.8%	2.8%	33.3%	88.9%	22.2%	28.6%	14.3%	25.0%	33.3%	19.4%		2.8%	0.0%	2.8%	8.3%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	33.3%
5 ジェンダー平等を実現しよう	0.0%	8.3%	0.0%	13.9%	63.9%	30.6%	14.3%	21.4%	16.7%	58.3%	33.3%		0.0%	0.0%	0.0%	30.6%	0.0%	0.0%	13.9%	0.0%	13.9%
6 安全な水とトイレを世界中に	0.0%	0.0%	0.0%	19.4%	83.3%	2.8%	0.0%	14.3%	8.3%	8.3%	2.8%		0.0%	0.0%	0.0%	52.8%	0.0%	0.0%	13.9%	0.0%	8.3%
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	0.0%	0.0%	0.0%	13.9%	50.0%	2.8%	9.5%	35.7%	8.3%	33.3%	30.6%		11.1%	8.3%	2.8%	27.8%	0.0%	0.0%	19.4%	2.8%	2.8%
8 働きがいも経済成長も	0.0%	0.0%	0.0%	19.4%	25.0%	13.9%	19.0%	35.7%	8.3%	25.0%	55.6%		0.0%	0.0%	0.0%	27.8%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	2.8%
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	2.8%	0.0%	2.8%	22.2%	25.0%	27.8%	9.5%	50.0%	8.3%	33.3%	44.4%		0.0%	0.0%	2.8%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	5.6%
10 人や国の不平等をなくそう	13.9%	2.8%	0.0%	52.8%	72.2%	27.8%	4.8%	50.0%	25.0%	66.7%	33.3%		0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	2.8%	2.8%	13.9%
11 住み続けられるまちづくりを	2.8%	0.0%	0.0%	8.3%	16.7%	5.6%	9.5%	28.6%	8.3%	25.0%	16.7%		0.0%	0.0%	2.8%	36.1%	0.0%	0.0%	44.4%	5.6%	13.9%
12 つくる責任つかう責任	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	13.9%	2.8%	0.0%	21.4%	8.3%	33.3%	27.8%		8.3%	5.6%	2.8%	38.9%	0.0%	0.0%	50.0%	2.8%	8.3%
13 気候変動に具体的な対策を	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	47.2%	2.8%	9.5%	50.0%	8.3%	41.7%	30.6%		2.8%	11.1%	38.9%	25.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	8.3%
14 海の豊かさを守ろう	5.6%	0.0%	0.0%	11.1%	36.1%	2.8%	0.0%	35.7%	0.0%	25.0%	13.9%		5.6%	25.0%	33.3%	19.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%
15 陸の豊かさも守ろう	2.8%	0.0%	0.0%	2.8%	25.0%	2.8%	4.8%	42.9%	0.0%	25.0%	11.1%		0.0%	33.3%	36.1%	19.4%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	5.6%
16 平和と公正をすべての人に	16.7%	2.8%	0.0%	36.1%	75.0%	27.8%	23.8%	28.6%	33.3%	50.0%	50.0%		0.0%	0.0%	0.0%	13.9%	2.8%	5.6%	0.0%	0.0%	13.9%
17 パートナーシップで目標を達成しよう	2.8%	0.0%	0.0%	8.3%	30.6%	11.1%	0.0%	28.6%	8.3%	25.0%	30.6%		0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	22.2%

### III. 本校のESDの現状

#### 1. アンケート調査（結果）

70%以上: 黄色  
50~70%: 黄緑  
40 ~50%: 水色

問4(理系)	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	地学基礎	保健	体育	芸術	家庭	情報	総合
	現代文	古典	数学	○英語	□	世界史	日本史	地理	倫理	政治・経済	現代社会	物理・物理基	化学・化学基	生物・生物基							
学習していない場合は×印 (○印は全員回答)	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
1 貧困をなくそう	11.9%	0.0%	0.0%	54.8%	85.7%	14.3%		16.7%		28.6%	0.0%	2.4%	0.0%		14.3%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	23.8%	
2 飢餓をゼロに	2.4%	2.4%	0.0%	45.2%	69.0%	11.9%		19.0%		21.4%	0.0%	2.4%	0.0%		9.5%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	19.0%	
3 すべての人に健康と福祉を	4.8%	0.0%	0.0%	23.8%	52.4%	11.9%		7.1%		33.3%	0.0%	2.4%	2.4%		50.0%	9.5%	0.0%	14.3%	0.0%	16.7%	
4 質の高い教育をみんなに	11.9%	2.4%	9.5%	35.7%	76.2%	11.9%		9.5%		23.8%	4.8%	4.8%	2.4%		4.8%	2.4%	7.1%	4.8%	7.1%	28.6%	
5 ジェンダー平等を実現しよう	9.5%	4.8%	0.0%	11.9%	57.1%	19.0%		2.4%		26.2%	0.0%	0.0%	2.4%		21.4%	0.0%	2.4%	2.4%	2.4%	7.1%	
6 安全な水とトイレを世界中に	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	78.6%	4.8%		9.5%		7.1%	0.0%	4.8%	4.8%		21.4%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	11.9%	
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	7.1%	0.0%	0.0%	4.8%	40.5%	9.5%		35.7%		19.0%	4.8%	16.7%	9.5%		11.9%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	16.7%	
8 働きがいも経済成長も	11.9%	0.0%	2.4%	9.5%	19.0%	16.7%		21.4%		54.8%	0.0%	2.4%	0.0%		4.8%	0.0%	2.4%	11.9%	7.1%	9.5%	
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	7.1%	0.0%	2.4%	9.5%	21.4%	16.7%		31.0%		35.7%	7.1%	4.8%	2.4%		7.1%	0.0%	2.4%	2.4%	16.7%	14.3%	
10 人や国の不平等をなくそう	9.5%	4.8%	0.0%	28.6%	57.1%	28.6%		16.7%		19.0%	0.0%	0.0%	0.0%		2.4%	2.4%	2.4%	2.4%	2.4%	21.4%	
11 住み続けられるまちづくりを	2.4%	2.4%	2.4%	4.8%	14.3%	4.8%		11.9%		26.2%	2.4%	4.8%	2.4%		14.3%	0.0%	2.4%	16.7%	2.4%	11.9%	
12 つくる責任つかう責任	11.9%	0.0%	0.0%	7.1%	14.3%	14.3%		7.1%		31.0%	4.8%	9.5%	2.4%		7.1%	0.0%	0.0%	23.8%	4.8%	9.5%	
13 気候変動に具体的な対策を	14.3%	0.0%	0.0%	9.5%	50.0%	4.8%		45.2%		31.0%	2.4%	9.5%	11.9%		11.9%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	19.0%	
14 海の豊かさを守ろう	4.8%	0.0%	0.0%	4.8%	26.2%	4.8%		28.6%		19.0%	2.4%	4.8%	26.2%		14.3%	0.0%	0.0%	2.4%	2.4%	19.0%	
15 陸の豊かさも守ろう	7.1%	0.0%	0.0%	11.9%	21.4%	4.8%		31.0%		19.0%	2.4%	4.8%	33.3%		7.1%	0.0%	0.0%	2.4%	2.4%	23.8%	
16 平和と公正をすべての人に	19.0%	2.4%	0.0%	33.3%	64.3%	26.2%		9.5%		33.3%	0.0%	0.0%	0.0%		7.1%	2.4%	4.8%	2.4%	2.4%	19.0%	
17 パートナーシップで目標を達成しよう	4.8%	4.8%	0.0%	14.3%	19.0%	14.3%		9.5%		21.4%	0.0%	2.4%	2.4%		4.8%	4.8%	2.4%	7.1%	2.4%	21.4%	

### III. 本校のESDの現状

#### 1. アンケート調査（結果）

70%以上: 黄色  
50~70%: 黄緑  
40~50%: 水色

#### 問5(全員)

	A 力ナダ語学研修(広島中学校)	B グローバル問題夏季集中講座(高一)	C FW フィリピン(高一)	D FW オーストラリア(高一)	ハワイ修学旅行(高二)	FW ハワイ(高二)	その他
参加していない場合は×印 (○印は全員回答)					○		
1 貧困をなくそう	0.0%	29.3%	100.0%	5.6%	11.5%	52.6%	41.7%
2 飢餓をゼロに	0.0%	14.6%	80.0%	11.1%	1.3%	31.6%	33.3%
3 すべての人に健康と福祉を	0.0%	22.0%	40.0%	5.6%	3.8%	31.6%	33.3%
4 質の高い教育をみんなに	12.5%	29.3%	40.0%	33.3%	7.7%	52.6%	50.0%
5 ジェンダー平等を実現しよう	0.0%	17.1%	20.0%	5.6%	5.1%	15.8%	16.7%
6 安全な水とトイレを世界中に	0.0%	9.8%	60.0%	44.4%	9.0%	31.6%	25.0%
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	0.0%	9.8%	60.0%	27.8%	20.5%	52.6%	8.3%
8 働きがいも経済成長も	0.0%	4.9%	40.0%	5.6%	6.4%	36.8%	16.7%
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	6.3%	7.3%	40.0%	5.6%	1.3%	31.6%	16.7%
10 人や国の不平等をなくそう	18.8%	43.9%	40.0%	22.2%	14.1%	36.8%	50.0%
11 住み続けられるまちづくりを	18.8%	4.9%	20.0%	22.2%	16.7%	26.3%	41.7%
12 つくる責任つかう責任	12.5%	0.0%	20.0%	16.7%	7.7%	31.6%	8.3%
13 気候変動に具体的な対策を	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	21.8%	47.4%	16.7%
14 海の豊かさを守ろう	12.5%	0.0%	20.0%	44.4%	48.7%	47.4%	8.3%
15 陸の豊かさも守ろう	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	30.8%	47.4%	8.3%
16 平和と公正をすべての人に	6.3%	48.8%	40.0%	11.1%	30.8%	52.6%	41.7%
17 パートナーシップで目標を達成しよう	31.3%	17.1%	0.0%	27.8%	21.8%	47.4%	50.0%

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM 講演会  
**教育改革の先行事例としての S G H**  
グローバル社会に開かれた、資質・能力ベースの、課題研究

広島県立広島高等学校 学校経営担当主査 小笠原 成章

**I 取組事例**

- ①夏季集中講座のデザイン 海外で議論できる生徒の育成
- ②卒業研究のデザイン 知的主体として生きる生徒の育成

**II 資質・能力ベースの学びへ**

**III 広島高校の S G H としての取組**

**IV 課題研究のカリキュラム・マネジメント**

**V パフォーマンス評価**

**VI 海外研修**

**VII 学校設定科目「グローバル**

育てるべき資質・能力や

その育て方を

自分の学校の課題としてどう考えたか

## 目標とコンピテンシーの設定

広島県立広島中学校・広島高等学校平成27年度スーパーグローバル  
ハイスクール構想調書より

### 【研究開発構想名】

持続可能な社会の構築に貢献できるグローバル・リーダーの育成

### 【研究開発の目的】

すべての人が“善く生きる”ことのできる持続可能な社会の構築に貢献したいという「高い志」を持ち、その実現のために、故郷「広島」に対する深い理解・愛着を持ちながら、国内外の異なる文化的背景を持つ人々と協働して、新たな価値を創造できるグローバル・リーダーを育成するために、カリキュラム・指導法・評価法の開発、及び環境整備を行う。

### 【本校が考えるグローバル・リーダーに必要なコンピテンシーの例】

持続可能な社会の構築に貢献したいという「高い志」

情報や意見・主張の是非を吟味し、多角的な視点から論理的に分析を加える  
「批判的思考力」

異なる文化的背景（言語・文化・価値観等）を持つ多様な他者との「協働力」

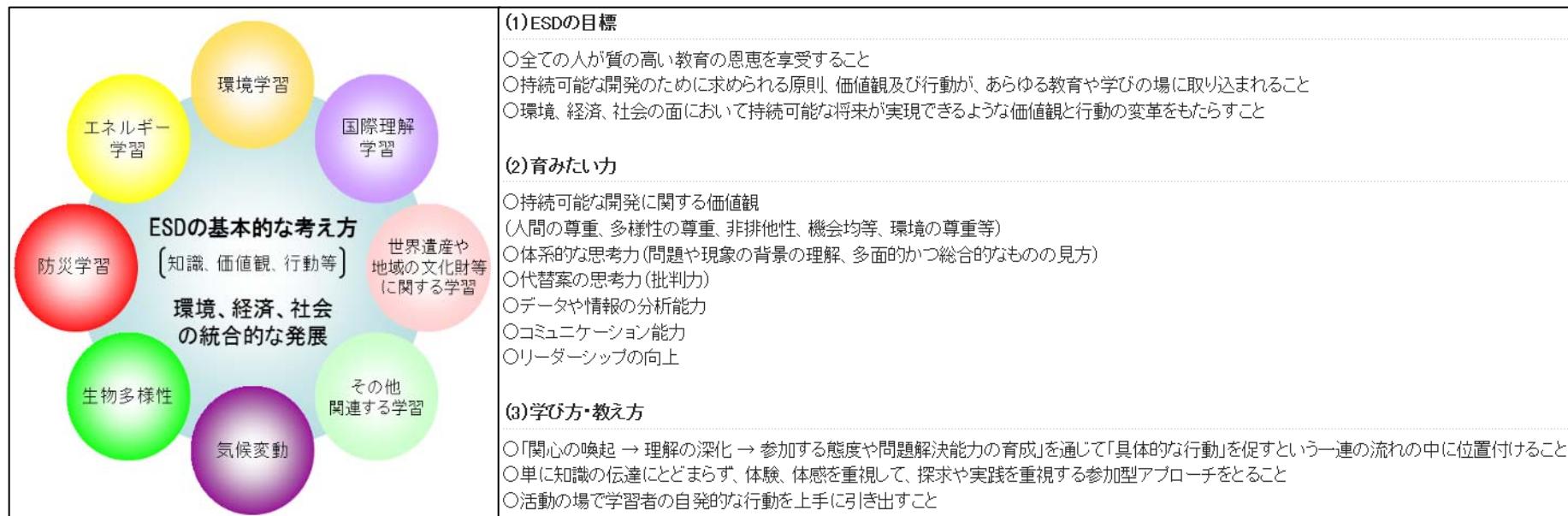
答えのない困難な課題に対し、新たな価値を生み出すために必要な「創造力」

多様な他者と協働し、新たな価値を創造するために必要な「深い知識・技能」  
「英語力」

# 持続可能な社会の構築に貢献できるグローバル・リーダー …とは具体的にどういうことか

## ESDとの共通性

文部科学省HP 日本ユネスコ国内委員会  
持続可能な開発のための教育 より



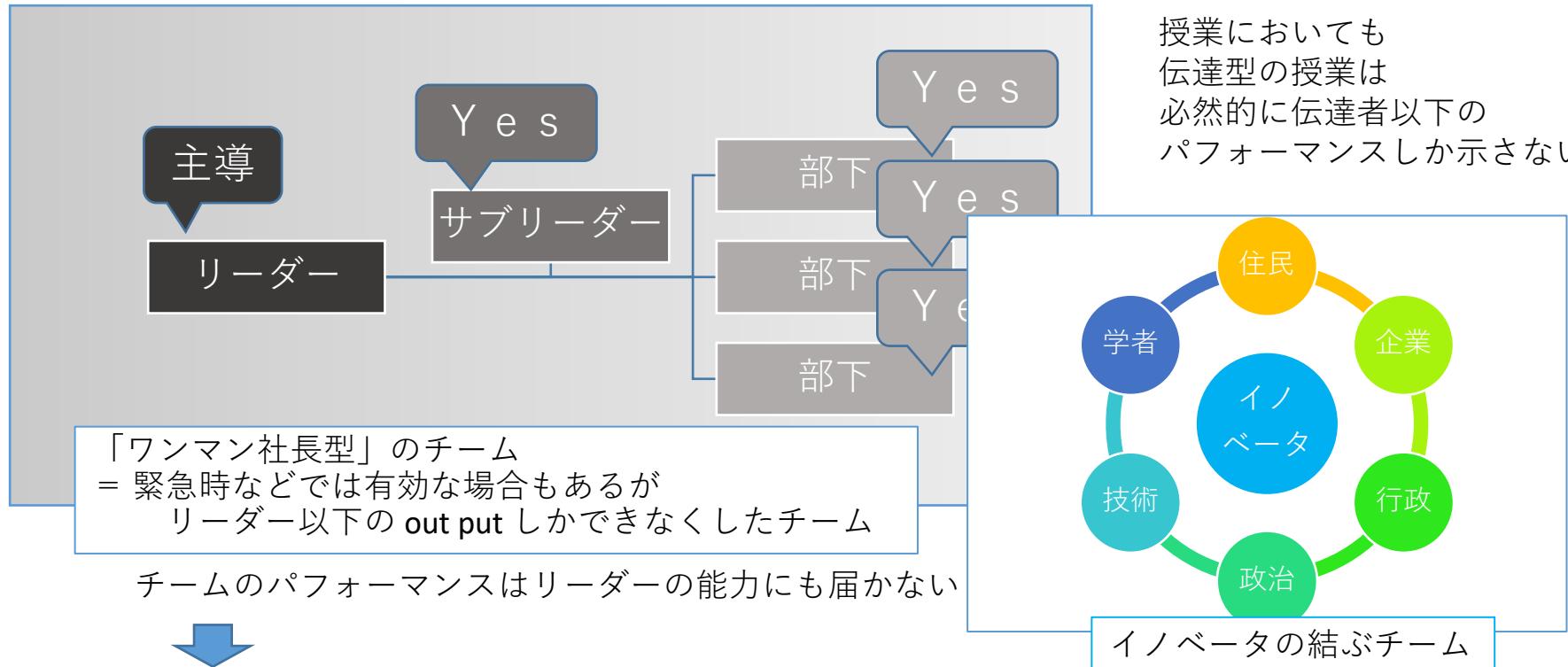
結局価値観（生き方）に行きつくのだが、それをどう育てるかは難問。  
既存の良識を踏まえた上で新しい良識を形成し、実行する力

「研究する姿勢」で求めるのが自他の「知見」の更新であるのより、  
生き方の更新はもっと人間的で大きなテーマ。 卒業研究などの学びはこれの下準備とも

50

# リーダーって何だろう

異質な他者との協働  
リベラルアーツの素養



リーダーの役割は、集団の中で最強の能力を自分が示すではなく、自分より優秀な／自分とは異質な能力や視点を周囲に示してもらい、協働してイノベーションを起こすことにある

違いを認め・尊重する  
まとめる つなぐ  
物事の成り立ちを分かっている  
「何とかしたい」と思う

左記はコンピテンシーでは  
協働力・批判的思考力・創  
造力 と 高い志  
下支えする 深い知識・技能 英語力

リーダーの育成  
はリーダーの育成  
であって優秀  
者の育成ではな  
い  
高い水準の資質・能  
力は必要だが

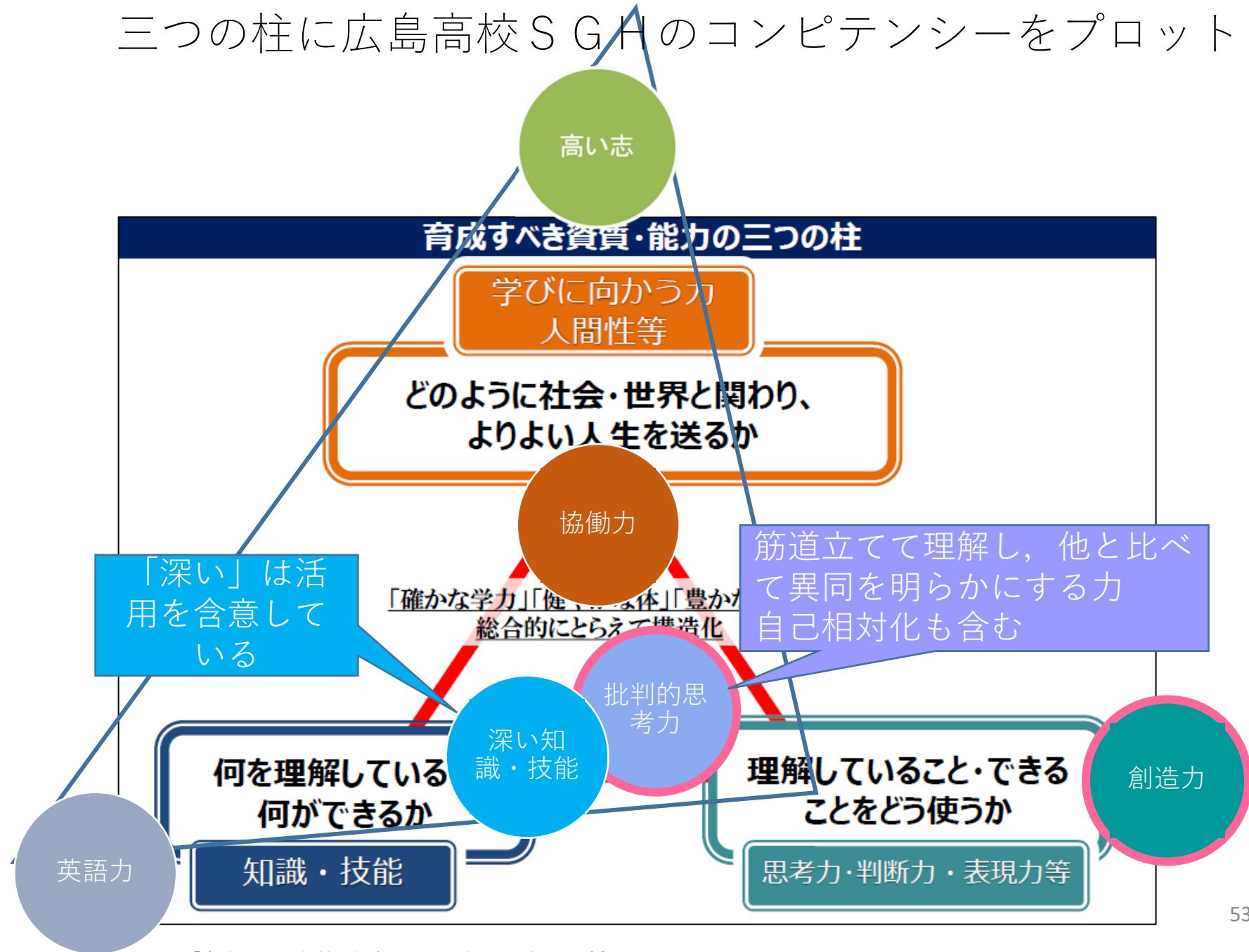
# 広島高校の6つのコンピテンシーの評価

「成果指標」となる生徒像	
高い志	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む 将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える
批判的思考力	情報や意見の是非を吟味し、多角的な視点から論理的に考え ることができる
協働力	目標の達成に向けて、異なる文化的背景を持つ人々と協働し て、主体的に行動することができる
創造力	現状に満足することなく、自分なりに工夫して、改善策を生 み出すことができる
深い知識・技能	
英語力	卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてのCEFR のB1～B2レベルの生徒6割以上

上4つはSGH事業全体で取り組む。教科は「深い知識・技能」。英語力は英語科

SGHの取組は現行の学習指導要領下にあったので、生徒にコンピテンシーの伸長を目標として示したり、単元ごとに自己評価を求めたりはしたが、成績とは直接結びつけなかった。これらを[全ての生徒について客観的に評価する方法は未開発。](#)卒業研究では一部実施。生徒の自己評価は授業改善には活かせた（後述）

# 三つの柱に広島高校SGHのコンピテンシーをプロット



解説部等  
科学省  
「育成すべき資質・能力の三つの柱」より  
文部科学省HP 平成29年改訂学習指導要領、

## 「知識・技能」とは

知識や技能なしに、思考や判断、表現等を深めることや、社会や世界と自己との多様な関わり方を見いだしていくことは難しい。

教科の特質に応じた学習過程を通して、知識が個別の感じ方や考え方等に応じ、生きて働く概念として習得されることや、新たな学習過程を経験することを通して更新していくことが重要

学習に必要となる個別の知識については教師が生徒の学びへの興味を高めつつしっかりと教授するとともに、深い理解を伴う知識の習得につなげていくため、生徒がもつ知識を活用して思考することにより、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、知識を他の学習や生活の場面で活用できるようにしたりするための学習が必要

学習指導要領解説総則編40頁

これは課題研究ではある程度実践できた  
今後は教科でどうできるかに挑戦

進学校では生徒に自学させることは常識だし、教科書を先に読んでいる生徒も中にはいるのだが、全員に何をどこまで要求すればよいのだろうか

←まったくその通りで

知識・技能なしに思考・判断・表現はない。

そして知識・技能をつけるだけで手一杯だったのがこれまでの学校だから、今後の学校が

(1) 今までと同等の知識・技能をつけた後に思考・判断・表現に進もうとする（上積）なら、パンクする

(2) 思考・判断・表現と知識・技能の棲み分け（配分）を図るなら、知識・技能は痩せてしまう

しかし高校には知識・技能の絶対的要水準がある。

進学校の場合は、「上級学校の教科書が読めること」である。

この無理を乗り越えるには

①知識技能思考判断表現の融合が必要だし

②得た知識を活用するだけでなく、自ら知識を得るスキルが必要

「思考力、判断力、表現力等」とは

「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力  
学校教育法第30条第2項

- 物事の中から問題を見いだし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- 精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考え方を適切に伝え合い、様々な考え方を理解したり、集団としての考え方を形成したりしていく過程
- 思いや考え方を基に構想し、意味や価値を創造していく過程

平成28年12月中央教育審議会答申

学習指導要領解説総則編41頁

右の3つについての  
イメージ  
問題の設定次第で  
○×は違ってくる

	ディベート	小論文	卒業研究
課題 発見 解決	自主的課題発見	×	△ ○
	解決方法計画	△	△ ○
	解決の実行	×	× △
	振り返り・発展	×	× ○
考え の形 成	自分の考え方の形成	○	○ ○
	他者の考え方の理解	○	△ △
	合意の形成	×	× ×
創造	意味や価値の創造	×	△ ○

「合意の形成」を集団として行わない  
ので全て×としたが、3つとも自分の  
意見への合意は求める。

知識伝達型の授業は全項目が×になる  
かもしれません（やり方しだいだが）、  
プロジェクト学習は全項目が○になり  
得る。

## 「学びに向かう力人間性等」とは

生徒一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓ひらいていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。

多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。

第1章総則第5款に示す生徒の発達の支援に関する事項も踏まえながら、学習の場でもあり生活の場でもある学校において、生徒一人一人がその可能性を發揮することができるよう、教育活動の充実を図っていくことが必要

学習指導要領解説総則編頁

右の感想文は、当時「感性があるなあ」と感心したものですが、こういう生徒を育てるには…

学習意欲をかきたてる仕掛けには注力できるが、感性や人間性を育むことはさらに難題で、学校や社会全体が背中でどういうメッセージを発しているかも問われる

### 【大島賢三元国連大使の講演(h28)の感想】

今日の講演会で一番思ったことは、人の上に立つ人とは、あんなにも穏やかで優しそうで、相手を思いやれそうで、かつ自分の意志もあり、あたりまえのことのようになすべきことを実行する人なんだという事です。人によく見られたいとか、目立ちたいなどの理由で、その場だけいい人に振る舞う事の空しさを感じました。大事なことは、目立つこと、相手に自分の凄さを知らしめることではない。反対に目的(グローバルリーダーとしての)はこの世をよくすることだ。だから、やるべきことを確実にすることと、相手を思いやって自分の意見も言うという人との関係を円滑に進められる能力をもち、それにより周りの人から「この人に任せた方が安心だ」という信頼感をもたれるような人になることを目指すべきだと気づきました。この学んだ事は、校長先生のおっしゃっていた「凡事徹底」の重要性ともリンクするのだと思います。誰かに何か言われなくとも、当たり前のようにやるべきことをする。提出物・授業態度・人との接し方・家庭学習など、やらないといけないと分かり切っていること、でも実行するには億劫なことをどれだけ自然にこなせるか。それが人に信用されるかの差になるのだと思います。

京都大学 石井英真 准教授

『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—』

表3 学校で育成する資質・能力の要素の全体像を捉える枠組み (p 23)

表3 学校で育成する資質・能力の要素の全体像を捉える枠組み

		資質・能力の要素 (目標の柱)			
能力・学習活動の階層レベル (カリキュラムの構造)		知識	スキル		情意 (関心・意欲・態度・人格特性)
			認知的スキル	社会的スキル	
教科学習	知識の獲得と定着 (知っている・できる)	事実的知識、技能 (個別的スキル)	記憶と再生、機械的実行と自動化	学び合い、知識の共同構築	達成による自己効力感
	知識の意味理解と洗練 (わかる)	概念的知識、方略 (複合的プロセス)	解釈、関連付け、構造化、比較・分類、帰納的・演绎的推論		内容の価値に即した内発的動機、教科への関心・意欲
	知識の有意味な使用と創造 (使える)	見方・考え方(原理・方法論)を軸とした領域固有の知識の複合体	知的問題解決、意思決定、仮説的推論を含む証明・実験・調査、知やモノの創発、美的表現(批判的思考や創造的思考が関わる)	プロジェクトベースの対話(コミュニケーション)と協働	活動の社会的リバナンスに即した内発的動機、教科観・教科学習観、知的性向・態度・思考の習慣
総合学習	自律的な課題設定と探究 (メタ認知システム)	思想・見識、世界観と自己像	自律的な課題設定、持続的な探究、情報収集・処理、自己評価	人間関係と交わり(チームワーク)、ルールと分業、リーダーシップとマネジメント、争いの処理・合意形成、学びの場や共同体の自主的組織化と再構成	自己の思い・生活意欲(切実性)に根差した内発的動機、志やキャリア意識の形成
	社会関係の自治的組織化と再構成(行為システム)	人と人との関わりや所属する共同体・文化についての意識、共同体の運営や自治に関する方法論	生活問題の解決、イベント・企画の立案、社会問題の解決への関与・参画		社会的責任や倫理意識に根差した社会的動機、道徳的価値観・立場性の確立
特別活動	再構成する学習者たちが決定する学習の枠づけ自体を学習者たちが決定する				

※社会的スキルと情意の欄でレベルの区分が点線になっているのは、知識や認知的スキルに比べてレベルごとの対応関係が緩やかであることを示している。

※網かけ部分は、それぞれの能力・学習活動のレベルにおいて、カリキュラムに明示され中心的に意識されるべき目標の要素。

※認知的・社会的スキルの中身については、学校ごとに具体化すべきであり、学習指導要領等で示す場合も参考資料とすべきだろう。情意領域については、評定の対象というより、形成的評価やカリキュラム評価の対象とすべきであろう。

広島高校のSGH事業は  
総合的な学習（探究）の時間、学校設定科目（GE）や  
海外研修と各教科の指導を組み合わせる

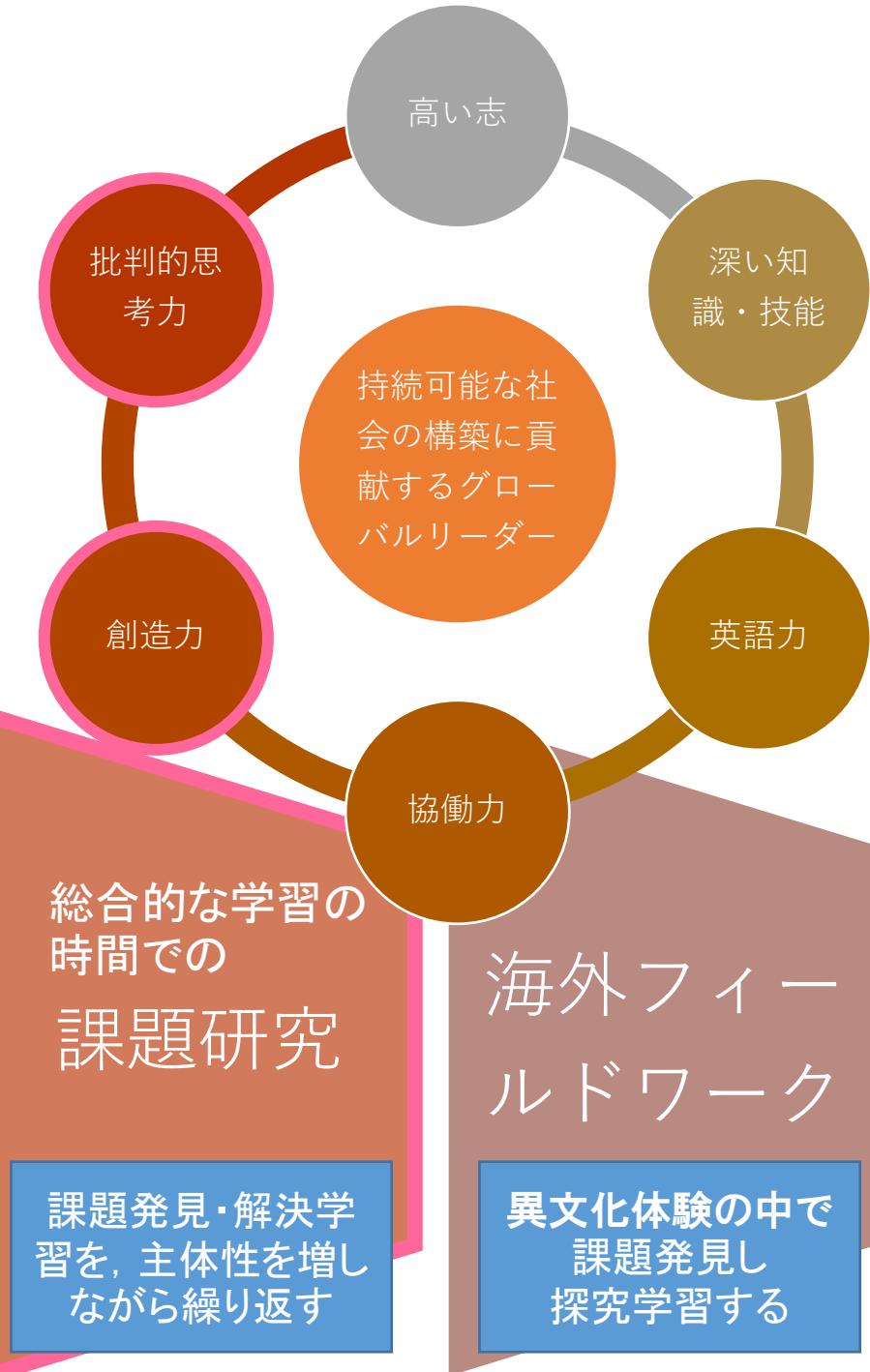
時期	海外研修など
1年夏	夏季集中講座
	フィリピン研修
1年冬	ハワイ姉妹校短期留学
1年春	オーストラリア研修
	台湾研修
2年夏	地元地域のFW(全員)
2年秋	ハワイ修学旅行(全員)
	ハワイ延泊研修

海外研修は希望者参加である

本校のSGH事業は  
4つの分野に分かれ  
6つのコンピテンシー  
を伸ばそうとする

課題研究は6つともに  
深くかかわるが特に  
**批判的思考力と  
創造力を育成する**

各教科における  
パフォーマンス評価  
アクティブな活動で  
本質を問い合わせ  
永続的に理解する



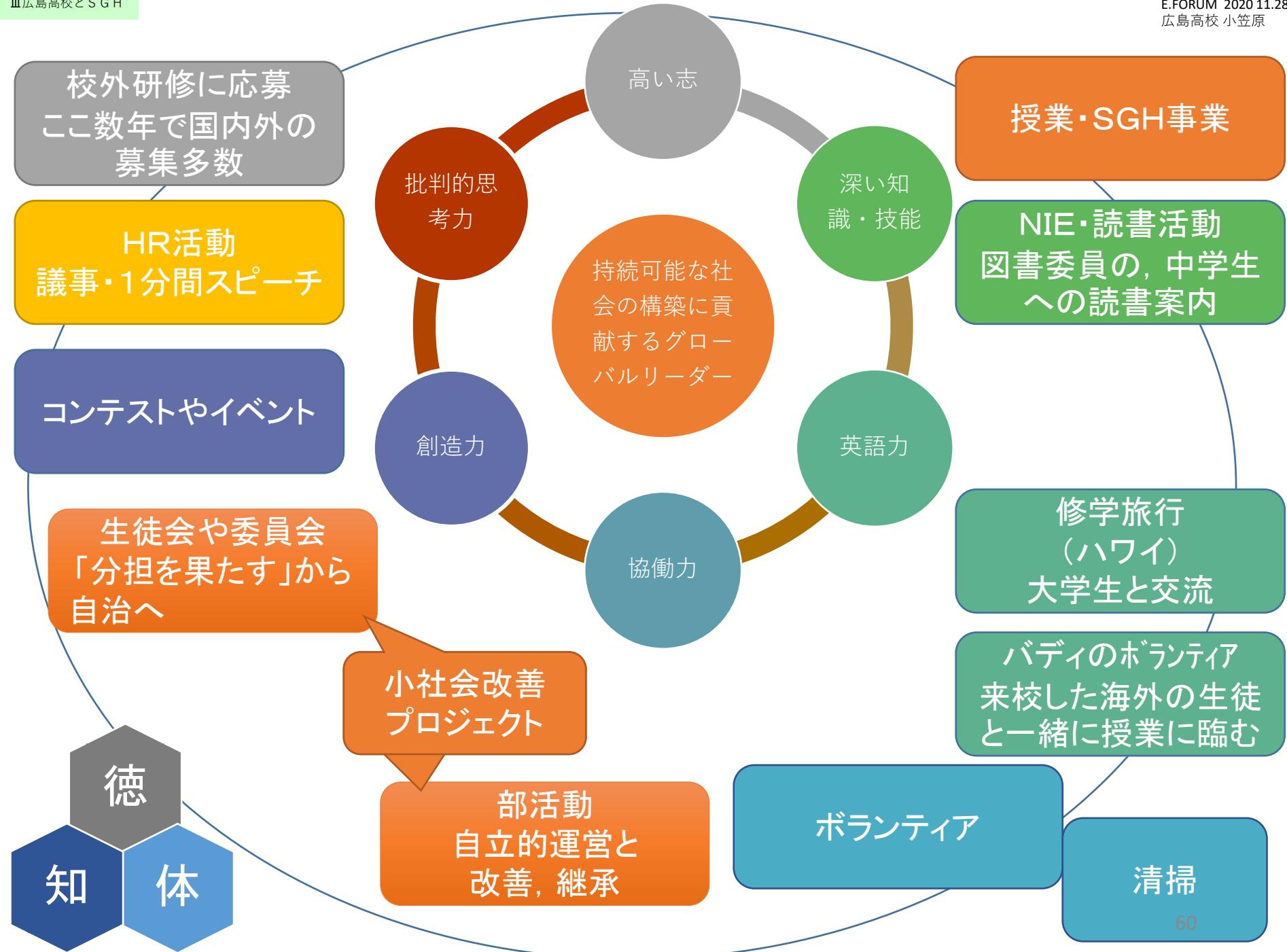
教科での通常の  
学習を深いものに

SGHでは教科が担当  
するのはこれ  
→パフォーマンス評価

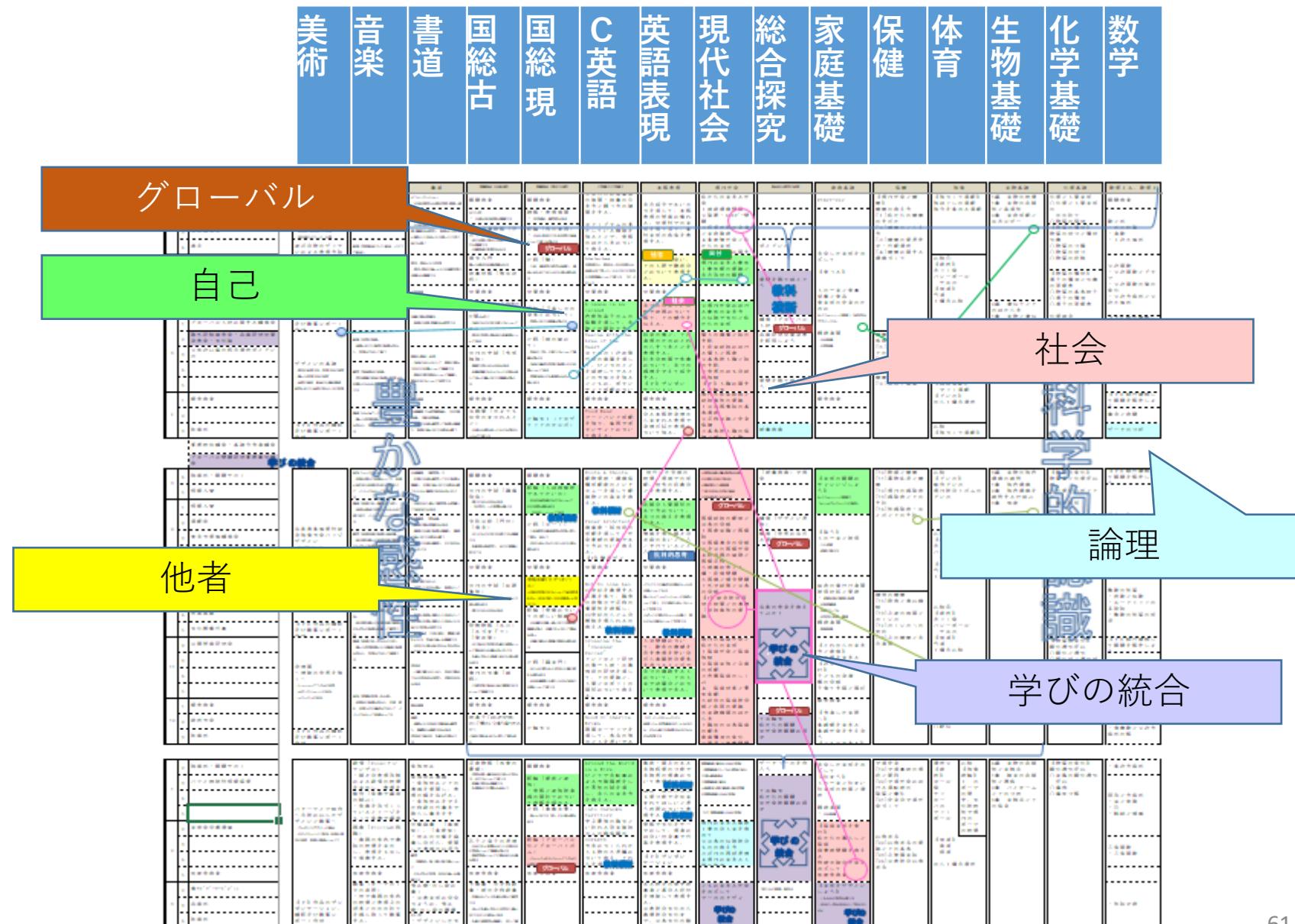
英語の新科目

グローバルエクスプレッション  
(学校設定科目)

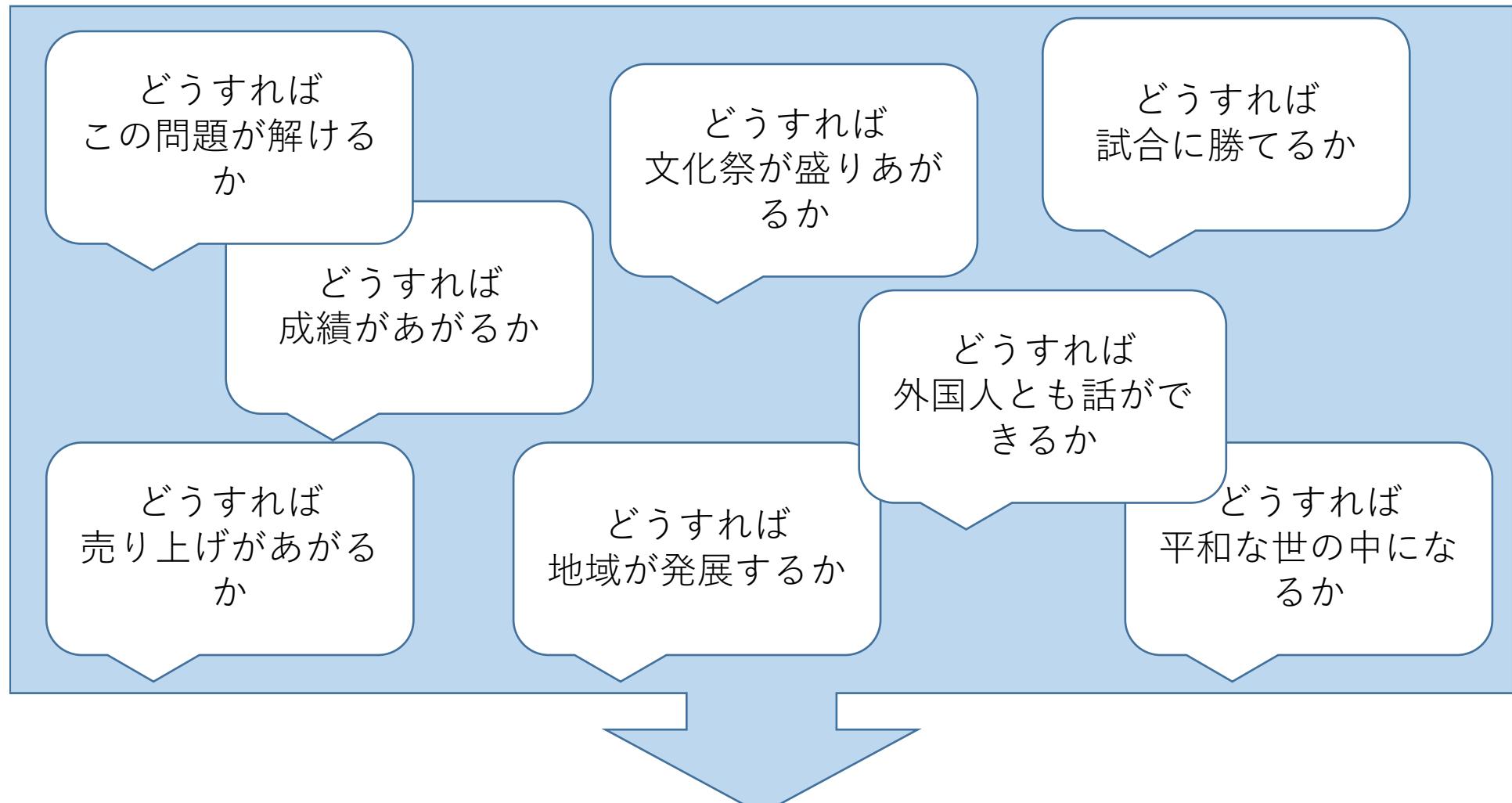
英語を使って  
社会的課題を巡り  
きちんと議論する



# 高1の全教科・全単元に見られる内容的な関連



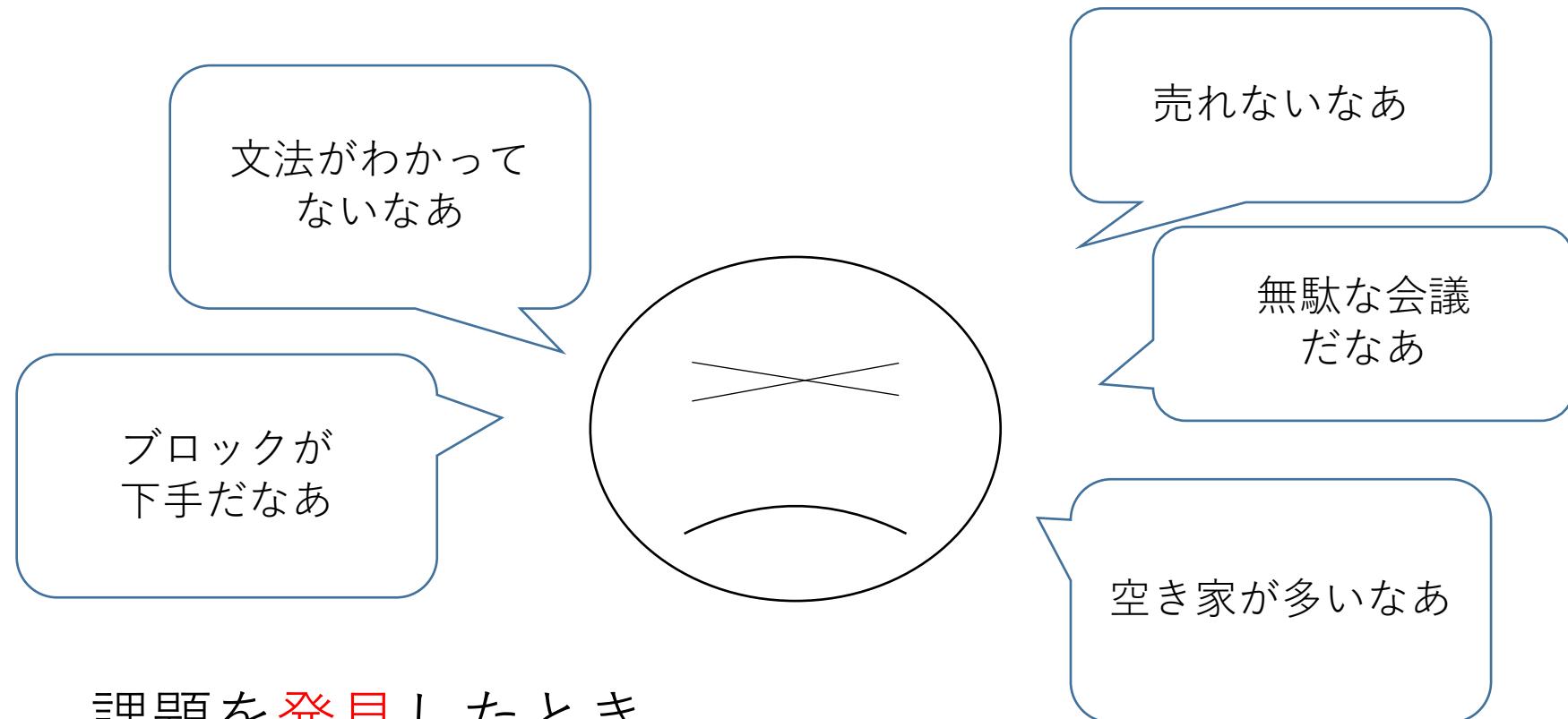
# 身边にある課題発見・解決



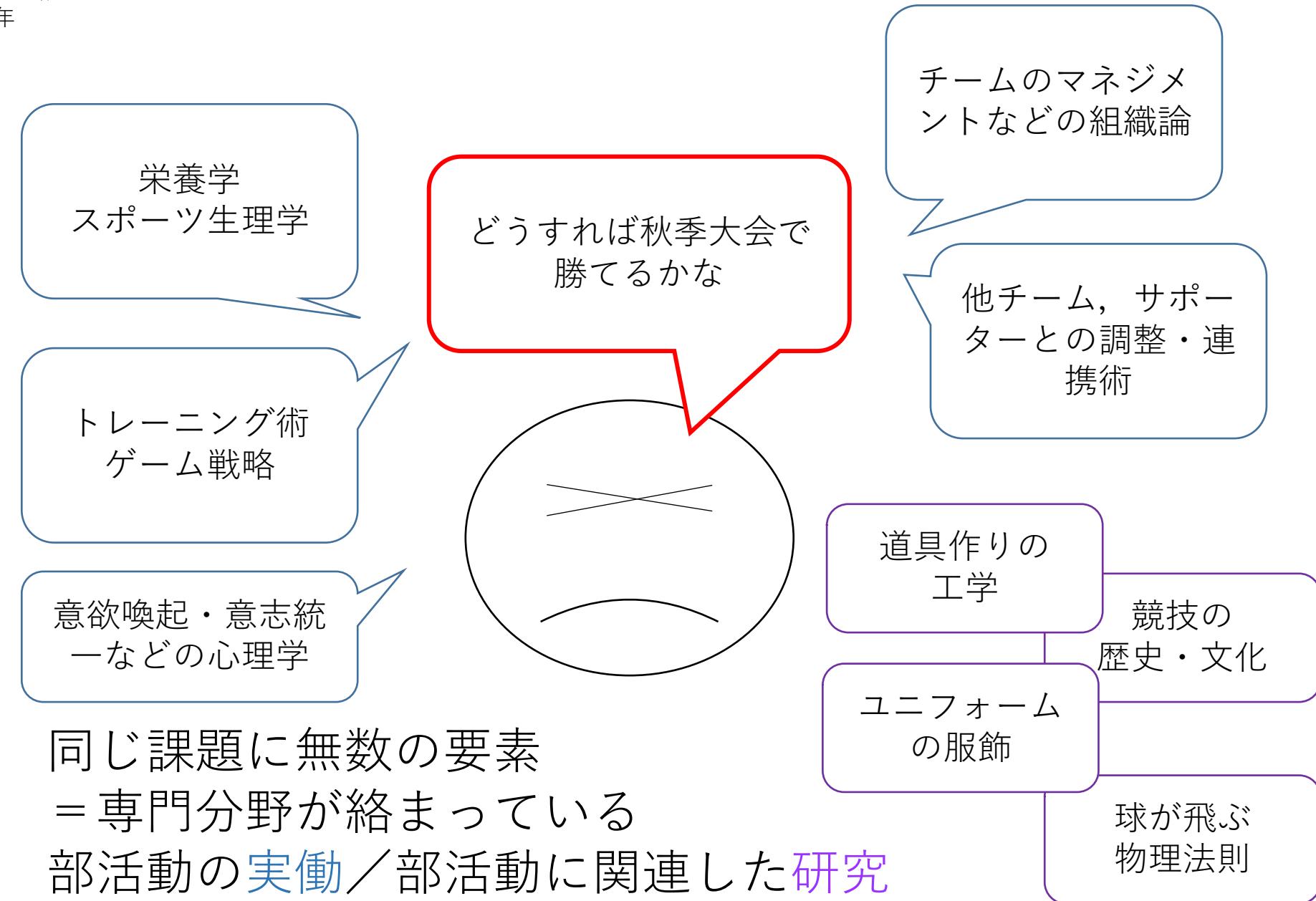
自分は知らないけれど、すでに存在する答え  
自分（たち）が作り出す答え

= 調べ学習の対象  
= 研究の対象

# 課題を解決できる人になろう 課題を発見できる人になろう



課題を**発見**したとき  
その課題は**解決**される可能性を持つ



# 京都大学のアドミッションポリシーより

※**色**による強調は引用者

京都大学は、教育に関する基本理念として「対話を根幹とした自学自習」を掲げています。京都大学の目指す教育は、学生が教員から高度の知識や技術を習得しつつ、同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、**主体的に**学問を深めることができるように教え育てることです。なぜなら、**自らの努力で得た知見**こそが、次の学術展開につながる大きな力となるからです。このため、京都大学は、学生諸君に、大学に集う教職員、学生、留学生など多くの人々との交流を通じて、**自ら学び、自ら幅広く課題を探求し、解決への道を切り拓く能力**を養うことを期待するとともにその努力を強く支援します。このような方針のもと、優れた学知を継承し**創造的**な精神を養い育てる教育を実践するため、自ら積極的に取り組む**主体性**をもった人を求めていきます。

京都大学は、その高度で独創的な研究により世界によく知られています。こうした研究は共通して、**多様な世界観・自然観・人間観**に基づき、**自由な発想**から生まれたものであると同時に、学問の基礎を大切にする研究、ないし**基礎そのものを極める**研究であります。優れた研究は必ず**確固たる基礎的学識**の上に成り立っています。

京都大学が入学を希望する者に求めるものは、以下に掲げる基礎的な学力です。

1. 高等学校の教育課程の教科・科目の修得により培われる分析力と俯瞰力
2. 高等学校の教育課程の教科・科目で修得した内容を活用する力
3. 外国語運用能力を含むコミュニケーションに関する力

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM 講演会  
**教育改革の先行事例としての S G H**  
グローバル社会に開かれた、資質・能力ベースの、課題研究

広島県立広島高等学校 学校経営担当主査 小笠原 成章

**I 取組事例**

- ①夏季集中講座のデザイン 海外で議論できる生徒の育成
- ②卒業研究のデザイン 知的主体として生きる生徒の育成

**II 資質・能力ベースの学びへ**

**III 広島高校の S G H としての取組**

**IV 課題研究のカリキュラム・マネジメント**

**V パフォーマンス評価**

**VI 海外研修**

**VII 学校設定科目「グローバルエクスノレッショング」**

広島高校は総合的な探究の時間で  
3年間の一貫した課題研究を行う

広島高校では  
総合的な探究の時間  
で課題研究を行う。  
学習指導要領が示す  
ものを具体化する1つ  
の方法が、卒業研究  
に至る3年間の課題  
研究と考える

第1の目標	
総合的な学習の時間(平成29年告示)	総合的な探究の時間(平成30年告示)
探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、 <u>よりよく</u> 課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(後略)	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、 <u>自己の在り方生き方を考えながら</u> 、 <u>よりよく</u> 課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(後略)

両者の違いは、生徒の発達の段階において求められる探究の姿と関わっており、課題と自分自身との関係で考えることができる。総合的な学習の時間は、課題を解決することで自己の生き方を考えていく学びであるのに対して、総合的な探究の時間は、自己の在り方生き方と一緒に不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを開拓していく。

質の高い 探究	探究の 過程の 高度化	①探究において目的と解決の方法に矛盾がない(整合性)
		②探究において適切に資質・能力を活用している(効果性)
		③焦点化し深く掘り下げて探究している(鋭角性)
		④幅広い可能性を視野に入れながら探究している(広角性)
探究が 自律的に 行われる		①自分にとって関わりが深い課題になる(自己課題)
		②探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる(運用)
		③得られた知見を生かして社会に参画しようとする(社会参画)

● 平成30年告示学習指導要領解説【総合的な探究の時間編】より

## 総合的な探究の時間の特質に応じた学習の在り方(12頁)

- ①日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け
- ②そこにある具体的な問題について情報を収集し
- ③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み
- ④明らかになった考え方や意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始める

物事の本質を自己との関わりで探し見極めよう  
とする一連の知的営み

### 同12, 13頁より探究の見方・考え方

社会で生きて働く資質・能力の育成

- 一つは、各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせること  
二つは、総合的な探究の時間に**固有な見方・考え方**を働かせること

- (1)特定の教科・科目等の視点だけで捉えきれない広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉えること
- (2)実社会や実生活の複雑な文脈や自己の在り方生き方と関連付けて問い合わせ続けること

## 自己の在り方生き方を考える3つの角度(14頁)

- ①人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えて、社会や自然の一員として、人間として何をすべきか、どのようにすべきかなどを考える
- ②自分にとっての学ぶことの意味や価値を考える(取り組んだ学習活動を通して、自分の考え方や意見を深めること。学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚すること)
- ③これら二つを生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の在り方生き方につなげて考える

高等学校では、生徒自身が自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくことが期待される

「よりよく課題を発見し解決していく」とは

解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題などについても、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目前の具体的な課題に粘り強く対処し解決しようとすることその際は生徒自身が課題を発見することが重要

具体的には

- ①自分と課題との関係を明らかにすること
- ②実社会や実生活と課題との関係をはっきりさせること

これら学習指導要領に示されたことは首肯できる。自己や社会や生活と関連づけた問題意識の持ち方は大切だし、そうでなければ切実な問題ではあるまい。

ただし、高校生にとって社会の前の大学生活が、対応すべき最初の外界であったり、「研究する人生」を送るものもいたりする。また学術的な真理の探究は、本当に胸躍る(ある時は困難な)営為で、生き生きとした活動があるのは間違いない。

学問的な探究を社会性の中で捉えることも広島高校では切実な設定である。

バランスよくテーマと学習形態を組み合わせ、螺旋状に展開

## 課題研究の流れと卒業研究(再掲)



- 学問研究
  - 持続可能な社会研究
  - グローバルリーダー研究
  - 異文化交流(姉妹校など)

- アカデミックスキルズ
- プロフェッショナル探究
- 異文化交流(修学旅行など)
- PPT論文の作成

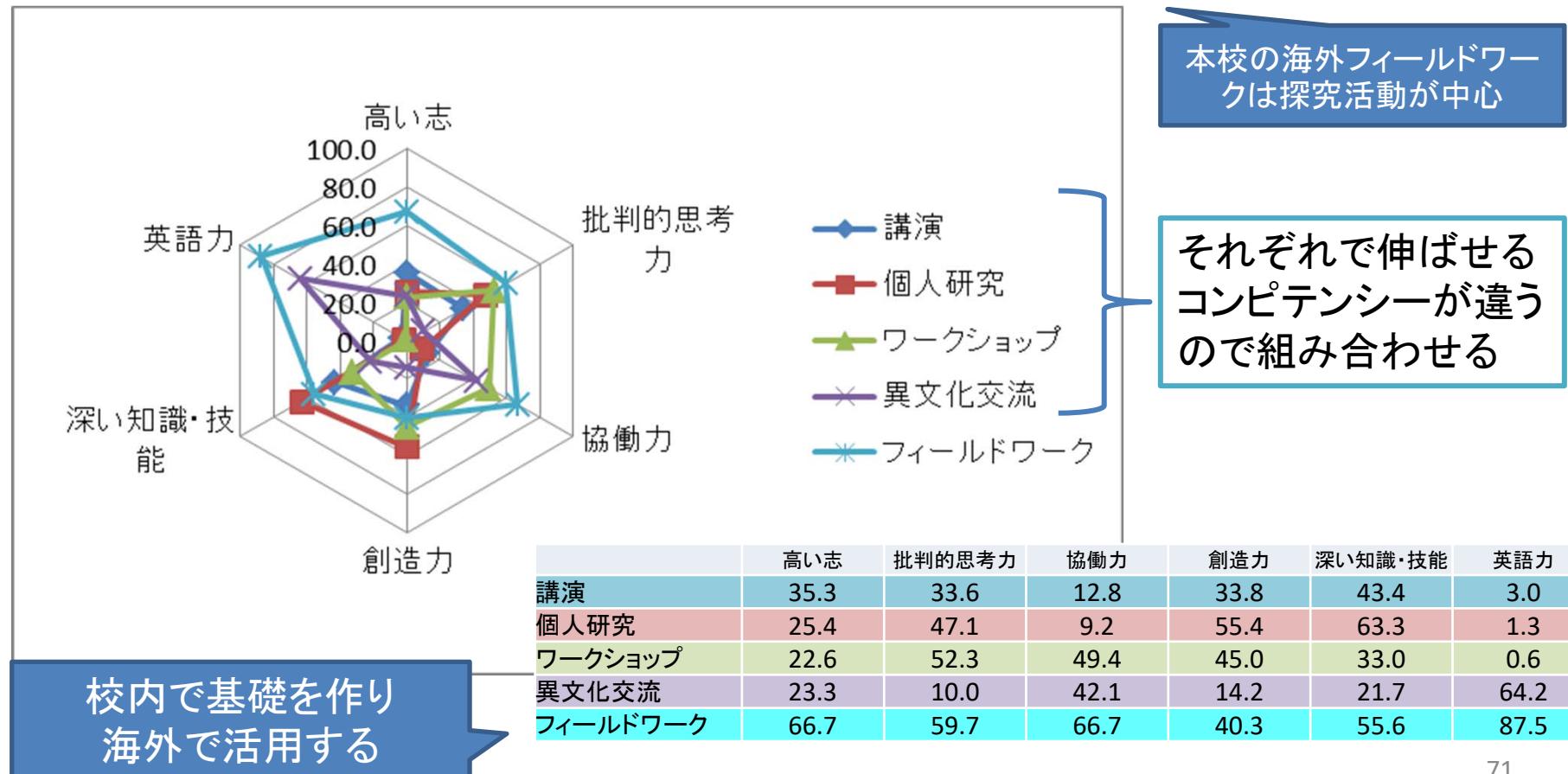
- 文章版論文の作成
- 卒業研究中間発表会

①社会についての研究  
②自己の省察  
③学問や研究についての学び  
が繰り返されて、後半の  
卒業研究に結実する

①社会についての研究は  
(1)模擬的な政策選択  
(2)地域課題の解決に関する  
ポスター発表  
(3)社会的な課題を発見し  
PPTで発表  
(4)地元地域を訪問し、「プロ  
フェッショナル」に課題発見  
解決などを学ぶ

# 生徒の自己評価(単元) ※SGH最終年度高3生の高1時 各単元末アンケートで「伸びた」コンピテンシー(%)

授業(事業)形態別「伸びた」コンピテンシー比較      ※フィールドワークだけは課題研究でない



## 生徒アンケートに見る「事業ごとに伸びたコンピテンシー」+指導の変遷

○数値は肯定的回答の学年全体に対しての%。希望者参加の事業は参加者に対する%。

生徒の、「伸びた」という自己申告なので、客観的に力がついたと言えない場合もあるだろうが、授業改善には使える指標の一つとして利用してきた。

○その事業で育てたいコンピテンシーの最重要項目をピンクの網掛け、重要項目を青灰色の網掛けで表示。

○伸びたコンピテンシーとして50%を超える回答項目にはフォントを太字にした。

○月に灰色の網掛けをしたもの以外は総合的な探究の時間の課題研究（これ以外にも単元あり）

高1生	育成したい コンピテンシー  行事名 希望者参加の場合 は15期生の参加人数	1	2	3	4	5	6	指導について	
		高い志	批判的思考	協働力	創造力	深い知識・ 技能	英語力		
5月	①広島大学中矢准教授の講演： グローバル人材とは ※13期生から5月に変更。中矢先生の開発したグローバル・コア・コンピテンシーアンケートに基づき自己省察する	12期	46.2	19.1	17.8	22.0	44.5	6.4	異文化交流に必要な力を明らかにし現状の自身との差を認識する。地元地域で働くグローバルリーダーを示し、自分ごととして捉えさせる。時期を変えて効果が上昇した
		13期	57.2	19.1	11.9	18.6	38.1	4.7	
		14期	60.4	26.7	17.9	18.8	37.5	5.0	
		15期	64.7	17.6	17.6	24.4	31.1	9.2	
6月	②広島大学大学院池田名誉教授の講演： 日本の発展と国際協力 ※国際協力を受け、してきた日本の歴史を振り返り、発展途上国と何ができるかを考える	12期	34.3	21.6	13.1	10.6	57.2	2.1	長年国際協力に取り組んできた池田先生を、ロールモデルとして、実際を聞く。初年は手違いにより時間の半分が質疑応答になり、順調な講演よりもむしろ理解が深い
		13期	39.4	23.3	14.4	14.0	42.8	2.5	
		14期	38.8	31.7	21.7	20.4	45.4	4.6	
		15期	31.5	21.4	22.3	18.1	37.0	22.3	
7月	③グローバル問題研究夏季集中講座 【102人】 ※内容は前述の通り。留学生や海外の高校生と議論し、ポスター発表する	12期	53.2	34.0	70.2	40.4	34.0	70.2	異文化交流を実体験する活動なので、協働力や英語力はもちろん、多くのコンピテンシーが講演よりも伸びる。 15期生は豪雨によって1日目が不実施になり、若干数値が低い
		13期	46.8	25.5	66.0	29.8	38.3	76.6	
		14期	48.2	35.7	69.6	35.7	41.1	78.6	
		15期	47.1	30.4	68.6	37.3	32.4	66.7	
8月	④海外フィールドワーク①inフィリピン 【5人】 ※スマーキーマウンテン見学。現地校訪問など（WWL研修開始によりR2廃止）	12期	75.0	50.0	50.0	25.0	50.0	100	参加人数が少ないので数値が大きく振れるが、海外研修だけあって夏季集中講座以上に強く動かされている。帰国した生徒は一様に常識を突き崩された経験を語る
		13期	100	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	
		14期	50.0	75.0	50.0	25.0	50.0	75.0	
		15期	80.0	40.0	80.0	20.0	20.0	80.0	

高 1 生	行事名	育成したい コンピテンシー						指導について	
		1 高い 志	2 思 考 判 力 的	3 協 働 力	4 創 造 力	5 深 い 知 識 ・ 技 能	6 英 語 力		
10 月	⑤山口大学徳久准教授の講演： デザインとデザイン科学 ※デザイン科学は顧客の課題を解決するの であって、顧客の言う通りやるのではない。	12期	14.8	17.8	8.1	47.5	36.0	0.0	社会的課題発見・解決の方法を学ぶので、 理解できた生徒には大好評。「どうすれば よいか」分かることは千天の慈雨。教員も 学び、次の単元との結びつきを強化した
		13期	21.2	18.2	6.8	52.5	35.6	0.0	
		14期	22.1	18.3	10.0	56.3	42.5	2.5	
		15期	19.3	16.8	7.6	68.9	35.3	0.8	
11 月	⑥グループ演習：広島の未来を考えてみた！ ※14期生から政治的教養の教育とコラボ。 広島県作成の資料に基づき、地域課題を発見 し解決策をポスター発表する	12期	22.5	35.6	59.7	56.4	25.0	0.8	模擬選挙（政策選び）から自分たちの政策 提言につなげる。ありがちなのは「地元に テーマパークを作る」などの、採算を考慮 しない思いつき。「法経教創」感覚が必要
		13期	21.2	33.9	59.3	53.8	28.0	0.8	
		14期	23.8	39.2	72.9	55.0	32.1	0.8	
		15期	31.1	34.9	71.0	63.4	29.8	0.4	
11 月	⑦立教大学河野教授の哲学対話： 持続可能な社会とは ※哲学カフェの方法で間を立て熟議する。 14期生から全グループを日本語に	12期	14.4	47.0	31.4	30.5	32.2	6.4	海外研修直前なので英語で議論するグル ープをもうけていたが、内容が薄かった。こ の日は「熟議」がテーマなので、日本語で 議論することに変更した
		13期	23.7	49.2	28.4	33.9	36.9	4.7	
		14期	21.3	65.4	25.8	35.0	33.8	0.4	
		15期	25.6	63.9	37.0	39.5	39.9	0.4	
12 月	⑧東京大学森山／福田／堀井／小松崎先生の 講演： ※1年目はリベラルアーツ。2年目は国際 的研究生活。3・4年目はイノベーション。	12期	55.1	12.7	6.8	16.9	44.9	0.8	東京大学や海外での学生生活にあこがれを 持つことを目的にしたのが最初2年。後の 2年の先生方とは生徒の「イノチャン」参 加でつながることになった
		13期	66.1	11.9	4.7	16.1	37.3	0.8	
		14期	34.6	20.4	8.8	42.9	44.2	2.1	
		15期	43.3	22.3	10.9	37.0	42.4	2.9	
12 月	⑨広島大学大学院の留学生との対話 ※本来7月（夏季集中講座前）実施だった が同時期に海外からの来校もあり、豪雨災害 を機に時期を変更。SGH終了で廃止	12期	22.0	10.6	17.4	11.9	18.2	50.4	最初は外国人と話すだけでイベントだった。 海外からの来校も増え、本当に「対話」を 目指すようになったがこれは難しい。高2 生にファシリテーターを務めさせた
		13期	18.2	6.4	28.4	8.1	14.0	55.5	
		14期	23.3	10.0	42.1	14.2	21.7	64.2	
		15期	24.8	10.9	49.2	17.2	18.1	71.8	
1月 ～ 3月	⑩個人演習：ミニ論文 ※社会的課題を発見し、パワーポイントでま とめる演習。14期生から全体発表会+講評を追 加。池田先生に講評をいただいた	12期	24.2	25.0	11.4	17.8	58.9	1.3	全体発表会と講評の追加により批判的思考力 が大幅に向上している。充実した発表の場の 必要性を痛感。その場では観点や論理性など をしっかりと批判することや、それを振り返りでまと めさせることが必須
		13期	29.7	30.9	7.2	17.4	54.7	0.4	
		14期	20.4	70.8	5.8	30.8	47.5	0.8	
		15期	30.3	64.3	3.8	37.4	51.3	3.4	
3月	⑪海外フィールドワーク②inオーストラリア 【25人】※参加者に対する%を表示 ※2週間にわたりホームステイしながら海外 で課題研究を行う。	12期	75.0	80.0	80.0	65.0	70.0	90.0	応募者には研究テーマを要求し、12月～3 月で準備し現地で研究、研究発表を行う。ただ 海外に行くだけでなく研究し、卒業研究などと つなげることで、学びを充実させる。その 結果最もコンピテンシーが上昇する
		13期	84.0	48.0	72.0	56.0	68.0	92.0	
		14期	83.3	44.4	83.3	55.6	61.1	100	
		15期	80.0	56.0	84.0	76.0	88.0	100	

狙いとしていたコンピテンシー(ピンク網掛け)が50%にとどかない場合、大きなテコ入れ  
14期で変えたものが多いのは、13期が改善しても効果が薄かったものの抜本変更  
授業改善ではこういうデータを取っておくことが参考になる

高2生	行事名	育成したい コンピテンシー		1	2	3	4	5	6	指導について
		高い志	深い技能知識	思考力的	創造力	協働力	英語力			
4月	①異文化理解のノウハウに関するポスター発表  ※最初はグループ交流。14期からノウハウのワークショップ、15期はポスターセッション	12期G	28.8	31.3	16.3	11.3	7.5	8.8	経験の共有だったが、海外研修参加者は少数なので、多くが聞き手に留まっていた。  経験者に取材してノウハウをまとめる单元にし、さらに発表を強化した。	
		13期G	28.4	25.9	13.6	2.5	12.3	14.8		
		14期G	15.9	48.8	34.1	43.9	75.6	4.9		
		15期G	42.3	39.7	65.4	50.0	42.3	3.8		
5月	②アカデミック・スキルズ：小論文と課題研究  ※13期までは模擬テーマを与え研究の方法を考える演習。14期から、大学入試の小論文を題材に学問分野ごとのものの見方を考察する演習	12期G	18.8	37.5	37.5	25.0	15.0	0.0	14期以降の方が数値が良いのだが、研究方法を考える演習自体は必要（④にした）。  まず困らせてから深めていく設計だったが、スマールステップの方が無難である。	
		13期G	12.3	25.9	43.2	23.5	21.0	1.2		
		14期G	12.7	41.8	59.5	36.7	65.8	0.0		
		15期G	21.7	37.9	63.4	52.8	72.0	0.0		
	③アカデミック・スキルズ：情報収集  OPACやJ-STAGEなど情報の集め方演習  ※演習にハワイ関連の検索を求めていたが、14期から自分のテーマに則した先行研究を特にクローズアップ	12期G	12.5	62.5	25.0	11.3	5.0	0.0	ハワイは修学旅行先。生徒は日常的に情報検索しているが、学術系の検索サイトは知らない。現在この单元は情報の授業に委ねている。	
	13期G	9.9	59.3	32.1	9.9	4.9	1.2			
	14期G	39.5	88.2	21.1	11.8	0.0	0.0			
	15期G	46.9	79.0	18.5	24.7	0.0	1.2			
	④アカデミック・スキルズ：研究テーマと研究方  ※13期まで論説や事象を統合して「正解」の多様性を考察する演習。14期から、研究テーマと方法を考える演習。先輩のテーマと自分のテーマで研究計画を立てる	12期G	11.3	40.0	47.5	18.8	16.3	2.5	14・15期の内容は12・13期が②で行っていたのと同じなのだが、順番入替で効果的になった。生徒の作品を教材として批判（改善提案）させるものである。	
	13期G	14.8	30.9	51.9	19.8	11.1	2.5			
	14期G	31.7	31.7	62.2	48.8	52.4	0.0			
	15期G	43.2	22.2	65.4	62.3	71.6	1.2			
	⑤広島修道大学 竹井教授の講演：「異文化理解・コミュニケーション」の理論的なポイント  ※13期までは大学からの留学や修道大学生が行った多文化共生の取組の紹介	12期G	23.8	46.3	31.3	11.3	8.8	0.0	大学生の取組を知ることが将来展望を与えると考えていたが反応が弱く、①と結び付けて異文化理解についてプロに聞く单元に変更した。①を踏み台にして深くなった。	
	13期G	35.8	40.7	32.1	18.5	19.8	0.0			
	14期G	32.1	71.8	61.5	29.5	24.4	5.1			
	15期G	38.0	84.8	60.8	32.9	12.7	5.1			

高2生	行事名	育成したい コンピテンシー		1	2	3	4	5	6	指導について
		高い志	識・深い技能知能	思考判断力的	創造力	協働力	英語力			
6月	⑥東広島市の講演：多文化共生の行政施策 ※⑧の下準備として地元の行政が何を目指しどんな施策を取っているのか学ぶ。また「やさしい日本語」の解説・演習も	12期G	26.3	51.3	31.3	21.3	10.0	1.3	展開は講師に委ねているが、クイズや演習問題があるなど、一方的な講演にならないように工夫されている。社会で実践されている「伝える技術」としても興味深い	
		13期G	21.0	42.0	34.6	25.9	29.6	0.0		
		14期G	34.1	87.8	29.3	19.5	12.2	0.0		
		15期G	53.8	78.8	12.5	31.3	56.3	1.3		
7月	⑦山口大学 ク里斯講師の講演： デザイン科学の考え方と実践事例 ※実践的な事例紹介を中心とする	12期G	15.0	50.0	30.0	50.0	2.5	6.3	1年の⑤が実例を含む概論なのに対し、ここでは実践者としての立場から課題解決を体験させる。スペイダーマンの言葉はここで出た。	
		13期G	33.3	49.4	28.4	54.3	2.5	2.5		
		14期G	22.5	71.8	50.7	47.9	5.6	12.7		
		15期G	52.5	82.5	27.5	67.5	3.8	8.8		
7月	⑧プロフェッショナル探究 ※地元行政や施設を訪問し、社会的課題の発見・解決についてインタビューする	12期G	40.0	66.3	30.0	28.8	35.0	3.8	職場で働く人の頭の中を覗き込むのが目的。質問の質や、対話して掘り下げられるかが重要だが、このスキルは簡単に身につかない。	
		13期G	50.6	70.4	18.5	18.5	12.3	1.2		
		14期G	※豪雨災害の影響により中止							
		15期G	55.0	60.0	48.8	33.8	62.5	1.3		
11月	⑨課題研究（卒業研究）広島大学院生来校（相談会）※研究テーマと計画の指導。1人10分。2月にも着地に向けた指導	13期G	29.6	51.9	65.4	30.9	9.9	2.5	他のシートで説明したことに加え、長丁場の研究に、大きな節目があることは進行上の利点がある。	
		14期G	42.1	53.9	61.8	31.6	27.6	1.3		
		15期G	48.0	66.7	70.7	41.3	13.3	0.0		
12月	⑩高1生の留学生対話をファシリテートする演習※「初めての異文化交流をどう支援するか」というパフォーマンス課題。グループワーク。13期までは6月に実施	12期G	13.8	16.3	13.8	33.8	67.5	35.0	会話ならまだしも、「対話」まで高めるのは至難の業である。表題はともかく、手におえるゴールの設定が必要である。	
		13期G	19.8	13.6	14.8	23.5	63.0	45.7		
		14期G	24.1	21.5	35.4	36.7	79.7	44.3		
		15期G	19.2	9.0	56.4	34.6	76.9	16.7		
9月～3月	⑪課題研究（卒業研究） ※数値は1月時点のアンケートによる	12期G	27.5	43.8	47.5	38.8	11.3	2.5	卒業研究に必要なのは何よりもモチベーションである。1年次から卒業研究への流れを示し、折に触れて意義を説明するようになった。	
		13期G	35.8	51.9	51.9	49.4	7.4	3.7		
		14期G	22.4	68.7	53.7	55.2	6.0	3.0		
		15期G	48.1	79.2	89.6	67.5	10.4	16.9		

# 卒業研究の最終評価

⑤⑦以外は論文の評価。自由テーマなので見方・考え方切り込むことは難しい。

関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		在り方生き方		総合的評価							
①テーマ設定	②先行研究批判	③全体構成の論理性	④結論の創造性	⑤マニュアル	⑥論文の記述	⑦感想文	⑧論文の総合評価								
非常に意義深いテーマ設定	先行研究を批判して使用	並はずれて重厚な構成	明確に新しい価値観や知見	ぜひ全体に紹介したい	下を満たし非常によい表現	将来と結びつく高い志を得た	ぜひ全体に紹介したい								
Gコース 9.8	Sコース 3.3	Gコース 11.0	Sコース 0.0	Gコース 3.7	Sコース 0.0	Gコース 11.0	Sコース 2.6	Gコース 7.3	Sコース 2.0	Gコース 12.2	Sコース 7.2	Gコース 26.8	Sコース 5.9	Gコース 13.4	Sコース 2.0
社会的課題の研究 37.8 25.7	学術的な先行研究を踏まえている	納得のいく論展開		ある程度の創造性(先行研究の検証やまとめ研究含む)		有益なアドバイス(次の学年の同じ研究分野の生徒に配付したい)		引用と自分の論の区別が明示されている		研究を通して物の見方や考え方方が変わった		次の学年の、同じ研究分野の生徒に見せたい			
学術的・専門的研究 22.0 29.6	46.3 37.5	51.2 52.0	50.0 21.7	39.0 18.4	61.0 50.0	46.3 13.2	45.1 27.0								
上2つ以外の自分の興味で研究 24.4 32.2	踏まえたものはある 34.1 48.0	論に一部飛躍 39.0 33.6	既知の結論に留まる 31.7 58.6	平凡な出来 50.0 58.6	一部区別が不明 18.3 34.2	やり抜いた達成感がある 25.6 78.9	平凡な出来 32.9 53.9								
最初から調べ学習、その他 6.1 9.2	自分の考えのみで進めた 8.5 14.5	まとまっていない 6.1 14.5	結論が不明 7.3 17.1	下級生の参考には使えない 3.7 21.1	誰の文章か分からぬ 8.5 8.6	研究に意義を感じなかった 1.2 2.0	下級生の参考には使えない 8.5 17.1								

よいでき

# 生徒間の質疑を制度化したことと、中間発表会での小グループ発表を取り入れたことにより(?)創造力と批判的思考力が向上 指導力の向上も

卒業研究の指導は本校が初めての教員も多い。「研究」の理解と長期的展望が必要。  
数年経過して「自分の指導」ができるようになった?

高校2年秋からの研究を通して、どのような力がどのくらい付いたと思いますか													
Gコース	高い志		深い知識・技能		創造力		協働力		英語力		批判的思考力		
	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	
5	24.7	22.4	39.7	48.7	28.8	41.3	17.8	16.3	15.1	12.4	49.3	61.3	とても身に付いた
4	57.5	55.0	57.5	45.0	60.2	52.4	39.8	41.3	27.4	11.3	46.6	37.4	まあまあ身に付いた
5+4	82.2	77.4	97.3	93.7	89.0	93.7	57.6	57.6	42.5	23.7	95.9	98.7	肯定的評価
3	12.3	18.8	2.7	6.3	8.2	6.3	21.9	33.7	17.8	35.0	4.1	1.3	どちらとも言えない
2	4.1	2.5			1.4		12.3	5.0	23.3	18.8			あまり身に付かなかった
1	1.4	1.3			1.4		8.2	3.7	16.4	22.5			全く身に付かなかった

Sコース	高い志		深い知識・技能		創造力		協働力		英語力		批判的思考力		
	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	
5	12.3	29.1	30.5	43.4	28.6	39.4	8.4	18.4	3.9	7.9	31.2	57.2	とても身に付いた
4	56.5	51.0	59.1	53.9	55.8	48.0	42.9	48.7	20.8	18.4	61.7	37.5	まあまあ身に付いた
5+4	68.8	80.1	89.6	97.3	84.4	87.4	51.3	57.1	24.7	28.3	92.9	94.7	肯定的評価
3	26.1	16.6	7.8	2.0	12.4	11.2	34.5	18.5	26.6	27.7	5.8	3.9	どちらとも言えない
2	3.2	2.6	1.3	0.7	2.6	0.7	9.7	7.2	17.5	17.1	1.3	0.7	あまり身に付かなかった
1	1.9	0.7	1.3		0.6	0.7	4.5	7.2	31.2	28.9		0.7	全く身に付かなかった

グローバルコースよりスタンダードコースの方が上昇率が高い。中間発表会を「優秀者の発表を聴く会」から「誰でも発表して議論し合う会・後輩に教える会」にしたような、考え方の変化が影響か?

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM 講演会  
**教育改革の先行事例としてのSGH**  
グローバル社会に開かれた、資質・能力ベースの、課題研究

広島県立広島高等学校 学校経営担当主査 小笠原 成章

## I 取組事例

- ①夏季集中講座のデザイン 海外で議論できる生徒の育成
- ②卒業研究のデザイン 知的主体として生きる生徒の育成

## II 資質・能力ベースの学びへ

## III 広島高校のSGHとしての取組

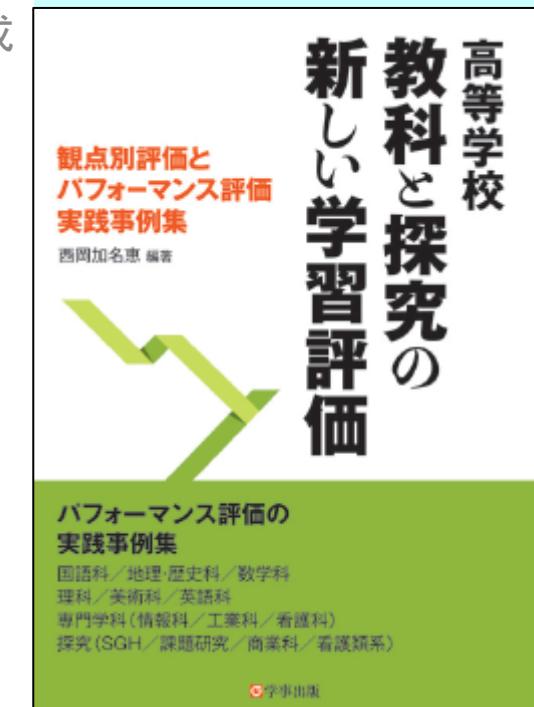
## IV 課題研究のカリキュラム・マネジメント

## V パフォーマンス評価

## VI 海外研修

## VII 学校設定科目「グローバルエクスプレッション」

発売中の西岡先生の著書に広島高校の  
実践もたくさん入っています



# V パフォーマンス評価

- パフォーマンス課題の原則

①妥当性：つけたい学力に対応している

本質的な問い合わせ・永続的理解が明確である

②真正性：現実世界で試されるリアルな課題である

③レリバנס：生徒の身に迫り、やる気になる課題である

④レディネス：生徒が背伸びすれば届く、適切な難度である

⇒評価と学びの一体化



広島高校では、**知的好奇心**や**向上心**で授業が成り立ってきた（深ければ面白い）

現実的設定に、**学びを深めること**とつながる意義を持たせるのは難度が高い  
(既習の学びの実践編はできるし意義もあるが、それは答え合わせにすぎない)

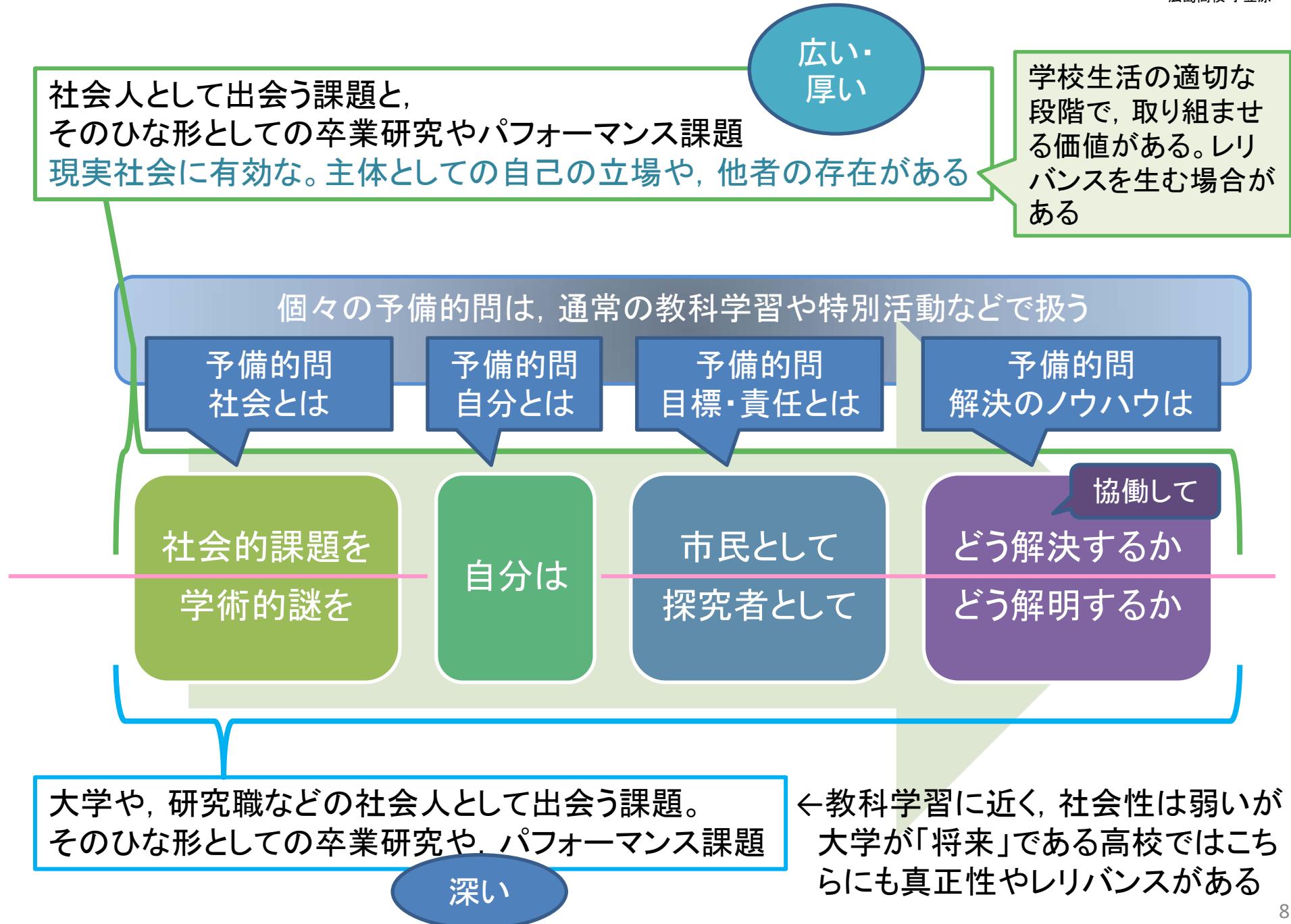
「なるほど！でも『本当にやる』のは難しいなあ」という興奮と苦悩からのスタート

## 総合的な探究の時間と他教科での探究の違いは 大規模なパフォーマンス評価と日頃の授業の違いとしても通用

総合的な探究の時間	他教科・科目
実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する事象が対象	特定の教科・科目等
複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせて探究 実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する問題を様々な角度から俯瞰して捉え、考えていく	教科・科目における理解をより深めることを目的に探究
解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見いだすことを重視	

学習指導要領解説【総合的な探究の時間編】(★頁)より

アクティブラーニング全般と同様、パフォーマンス評価も大小を場合に応じて使いこなせばよいが、教科と卒業研究の中間を埋めるものになりえる



パフォーマンス課題 (SGH第4年次報告書:平成30年度実施)		複数解の性質	協働性	真正性(リアルな課題か)	レリバンス(身に迫るか)	科目内の複数の知識・技能の活用	他教科などの知識・技能の活用	汎用的手法の利用
いろんな教科のパフォーマンス課題を並べてみると、性格の違いが明らかである								
古典総	伊勢物語の文脈に即して、作中の和歌に対する返歌を作る	○	班推敲 個人作成	×	×	和歌、単語、文法	×	×
数Ⅰ	任意で身近なデータを取り上げて、これまで学んだ手法で分析する	○	班発表 個人作成	×	×	データの整理・代表値・相関	医師数、睡眠時間など	レポート作成
物理	はしごに上りかけた友人の質問「2段目にも上れるか」「最上段まで行けるか」に回答する	変数含	班研究	△	×	剛体、合力、重心	×	理論と実験実験報告書
保健	感染症研究所の職員として、国民に対し新たな感染症予防の啓蒙パンフレットを作成する	○	制作 グループ	○	△	感染症、突然変異、耐性	温暖化、国際化	チラシ作成
地理	旅行会社の社員として社内コンペに「エコツーリズム」などのプランを提出する	○	制作 グループ	○	△	環境・生活・産業	×	パンフレットプレゼン
英語	広島高校生徒会から「日常的に使える防災グッズ」を地域に提案する	○	制作 グループ	○	○	(四技能)	災害、防災	プレゼン

教科専門の学びそのままのものから社会的なものまで、多様性がある

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM 講演会  
**教育改革の先行事例としてのSGH**  
グローバル社会に開かれた、資質・能力ベースの、課題研究

広島県立広島高等学校 学校経営担当主査 小笠原 成章

I 取組事例

- ①夏季集中講座のデザイン 海外で議論できる生徒の育成
- ②卒業研究のデザイン 知的主体として生きる生徒の育成

II 資質・能力ベースの学びへ

III 広島高校のSGHとしての取組

IV 課題研究のカリキュラム・マネジメント

V パフォーマンス評価

VI 海外研修

VII 学校設定科目「グローバルエクスプレッション」

# VI 海外研修

を語るのにふさわしい人は他にいますから、私の視点から少しだけ  
体験することの重要性

異文化交流系のイベントや海外研修では、生徒が目に  
見えて成長します。やってみると、もはや止めようとは思  
わないくらいの意義があるように思います

- ・オーストラリアに引率した私もカルチャーショックを  
受けました

学校は15時半に施錠され無人になる。週36時間労働。  
アルバイトは時給1600円以上。生徒は地域のスポーツ  
クラブに複数所属する。どの本屋にも図書館にも日本の  
マンガ・アニメの棚が有り、高校生に日本語人気

- ・1年生が夏季集中講座の数日後に行ったフィリピン  
のスモーキーマウンテンで現地の人の誇り高さに  
感動した話をしてくれたり
- ・生徒が平和についてバンサモロ地区の住民と対話  
していて、相手の言う「平和」が戦闘がないことなの  
に、会話の途中で気づいたり



ハワイ大学でSDGs対話  
プログラム作成はハワイ大学学生



オーストラリアの森で植林体験  
プログラム作成は姉妹校NLSC

# 課題研究と組み合わせる

## オーストラリア研修のテーマ(15期)

### 志望理由書での調査テーマ

- オーストラリアでの環境問題や自然災害の原因を探る
- 環境問題とその対策(日本との違い)
- 地球温暖化が及ぼす森林火災への影響と対策について
- オーストラリアに住む人々と日本人それぞれの他の文化に対するハードル
- ブリスベンにおける都市開発
- 森林の減少と動物の絶滅について
- 日本がこれから見習うべき多文化主義の利点と課題
- オーストラリアのサンゴ礁におけるプラスチック汚染の状況と地域における対策の違いから世界規模での海洋汚染対策について考える
- オーストラリアにおける干ばつの現状とその影響について
- 異文化共存と人々の生活
- 国際的な取り組みにおける異文化理解の重要性
- オーストラリア周辺の海洋での環境問題
- 多文化共存できる教育現場
- オーストラリアと日本の水問題への意識と取り組みの比較
- 幸せとは何か
- オーストラリアの多文化主義とその背景
- 日本とオーストラリアにおける病気の対策法の違い
- 世界の国々においてこれからの医療で大切なことは何か
- 海洋プラスチック問題
- 日本とオーストラリアにおける生態系維持への取組や意識
- オーストラリアと日本の移民問題からより良い多文化社会について考える
- 多文化教育と校則
- 世界中の人々が互いを認め合っていくにはどうすればよいのか
- オーストラリアの多文化主義を支える外国語教育について
- 異文化理解・自然災害

海外の研修先には

現地ならではのテーマを持って課題研究に行き、研究を完成・発表してくる  
テーマを持つものの見方が違ってくる

①行くまでの準備も大きな学びである  
校内で全生徒が行う課題研究を、海外研修参加者は研修準備にあてられるように单元設計している

②帰国報告を全体で共有する  
③海外研修で得たものを卒業研究につなげる  
ことが望ましい

現地でできることは限られているので  
大きなテーマを持って行っても難しい

姉妹校の生徒と共同研究が始まること  
が内容充実へのブレークスルー

# 研修に向けた準備と事後学習

## 【a】メンター制度

オーストラリアでの現地の生活や、研究活動の不安を解消するためには、綿密なフォローが必要である。しかし、教員の補助だけでは参加者25人を十分に面談することができず、時間の制約もあり、うまく生徒たちをフォローすることができない。  
そこですでにオーストラリア研修に参加した高2生を、メンターとして募集し、今年度参加する生徒たちの補助をしてもらう

## 【b】事前指導

大学関係者による事前指導を実施した。この指導では、現地での調査研究や研究発表をより円滑かつスムーズに行うために、広島大学教育学研究科(当時)の教授である松見法男先生に御協力いただき、松見先生をはじめとする外部講師による事前指導の機会を設けた。その中で、研究方法や成果物のまとめ方、研究発表の仕方等について学習した。また、事前指導を通して、調査研究に対する理解を深め、各自の研究をより充実したものにした。

- 総合情報(3時間目)ポスターセッションのまとめ　異文化交流のポイント
  - ・相手への理解、相手の背景を知ること
  - ・自国の理解
  - ・積極性(文法よりも積極性)、自信
  - ・知識
  - ・相手を引き付ける魅力
  - ・伝え方、笑顔
- 3 参考になった点
  - ・学校での授業の歴史の授業など、知識の予習
  - ・語学じゃないよコミュニケーションは。
  - ・伝えたいことは、一度紙にまとめておいて話すこと
  - ・相槌を打つこと
  - ・文化を知っておくだけでなく、交流時に事前に注意事項を伝えておくこと
  - ・日々のスタイルから背極性を育てておく
  - ・その言語を知らないても、ジェスチャーなどで伝えようとする姿勢が大切
  - ・自分の意見を抑えないこと
  - ・歴史を学ぶということは歴史だけでなく、幅広い歴史をとらえ、文化や背景を知るということ
  - ・知らず知らずのうちに壁をつくってしまうことがあるので、それを自覚すること

# ワインワインの相互交流

- 相互に訪問すること

海外研修は意義深いが、経費が高いし人数が限られる  
海外研修の受け入れは、多くの生徒や教員が関わる  
海外の姉妹校と相互訪問を行えば海外研修先の学校で自国  
を紹介することが、「相手に求められるプログラム」になる。

- 課題研究の共同制作

広島高校はオーストラリアの姉妹校で課題研究を行ってきた結果、2021年より生徒同士での共同研究を求められた。

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM 講演会  
**教育改革の先行事例としてのSGH**  
グローバル社会に開かれた、資質・能力ベースの、課題研究

広島県立広島高等学校 学校経営担当主査 小笠原 成章

I 取組事例

- ①夏季集中講座のデザイン 海外で議論できる生徒の育成
- ②卒業研究のデザイン 知的主体として生きる生徒の育成

II 資質・能力ベースの学びへ

III 広島高校のSGHとしての取組

IV 課題研究のカリキュラム・マネジメント

V パフォーマンス評価

VI 海外研修

VII 学校設定科目「グローバルエクスプレッション」

# VII グローバルエクスプレッション

## 最初から社会的課題意識を正面に据えた、 アクティブな学びの科目を創設する

指導計画					
月	単元	時数	身に付けたい力	学習内容	評価の観点及び観点に応じた主な学習達成目標
4	<b>Part 1 : L2 Palm Oil</b>	6	・社会的な話題について、聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点を的確に捉えたり、自分自身の考えをまとめて発表したり、書いたりする力。	貧困問題 ディベート  補助教材 <i>Departure P1 L1, 2, 3</i>	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ペアやグループでトピックにあわせたディベートなどの意見交換を積極的に行っている。
					世界の諸課題について、自分の意見を簡潔に表現することができる。
					世界の諸課題について、情報や考えなどを理解し、概要を捉えることができる。
					世界における「貧困問題」についての現状を理解している。また、ディベートに関する表現法等を理解している。
5	<b>Part 1 : L6 Gender Equality</b>	8	・社会的な話題について、聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点を的確に捉えたり、自分自身の考えをまとめて発表したり、書いたりする力。	男女の平等 ディベート  補助教材 <i>Departure P1 L4, 5, 6</i>	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ペアやグループでトピックにあわせてスピーチなどの意見表明を積極的に行っている。
					世界の諸課題について、自分で調べた情報や他者の意見などを簡潔に表現することができる。
					世界の諸課題について、情報や考えなどを理解し、概要を捉えることができる。
					世界における「男女の平等」についての現状を理解している。また、ディベートに関する表現法等を理解している。
6	<b>校内英語ディベート大会にむけて</b>	13	・多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べたり、書いたりする力。	ディベート 論題に関するリサーチ 立論作成 英語ディベート大会準備  補助教材 <i>Departure P1 L7, 8 P3 L2, 3 P5 L1, 2, 3</i>	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ディベートの論題について積極的に情報収集をしている。
					ディベートの論題について、調べた情報や他者の意見等を踏まえて立論を作ることができる。
					ディベートの論題や収集した情報について理解し、要点を捉えることができる。
					ディベートの論題についての現状を理解している。また、ディベートに関する表現法等を理解している。
		小計 ( 27 )			

読解力と表現力を高めるSDGs英語長文  
(三省堂)



時期	学習内容	指導内容	成果または課題
1学期内間まで	○Unit 2: "Global Warming" ・DVD視聴 ・リーディング活動 ・ディスカッション	・地球温暖化の原因の一つである森林伐採について、他の資料を用いて発展的な教材開発をし、多角的に考えさせた。	・地球温暖化をもたらす人間の活動について具体例を用いて説明できた。 ・トピックである地球温暖化についての知識に差があり、ディスカッションが深まらなかった。
中間後から6月中旬まで	○Unit 3 "Drinking Water" ・DVD視聴 ・リーディング活動 ・ディスカッション ・リサーチ ・ポスター作成 ・発表練習 ・発表(質疑応答)	・さまざまなデータを提示し、安全な飲料水の確保についてだけでなく、「水」に関わる問題について多面的に捉えさせた。 ・「水」に関わりグループ毎に問題点を挙げ、現状や解決策についてまとめ、ポスターを作成して発表させた。 ・質疑応答の時間を作り、即興でやり取りをさせた。	・豪雨災害での体験から、他国の水問題を自分事として考えるグループもあった。 ・メモや原稿に頼り、聞き手を意識した発表ができなかった。 ・リサーチとポスター作成に時間をとられたグループもあり、十分発表練習ができていない生徒もいた。
6月中旬から7月中旬まで	○校内ディベート大会準備 ・DVD視聴 ・リサーチ ・ディスカッション ・立論作成 ・ディベート練習 ・クラス内予選 <b>○校内ディベート大会(7月18日)</b>	・昨年度の校内ディベート大会の様子を視聴し、ディベートの概要を学習させた。 ・ディベートマニュアルを作成し、ディベートの型を指導した。	・グループごとに論題について話し合い、リサーチする時間をとることができ、協働的な学びにつながった。 ・英語科の教員全員で分担し、クラス予選を参観することによって、GE Iでの学習について教科で共有できた。 ・立論はできたが、リスニング力をはじめとしてやり取り(質問・アタック・ディフェンス)の力が不十分であった。 ・質問を効果的に活用することに課題が残った。 ・授業時間を使っての準備や練習時間の確保には限界があり、生徒の授業外での活動に任せる部分が多くなった。 ・全国大会のジャッジ経験のある先生を講師として招くことで、生徒の意欲と緊張感を高め、さらに立論作成の上で新たな視点を得ることができた。
2学期内間まで	○Unit 6 "Terrorism" ・DVD, YouTube視聴 ・リーディング活動  ○Unit 7 "Internment" ・DVD視聴 ・リーディング活動 ・ディスカッション	・インフォグラフィックを使い、データを読み取ることにより、事件の概要について理解させた。 ・強制収容所での生活がどういったものであったか、またそこで生活を強いられた人々の気持ちはどうであったか考えさせた。 ・「忠誠心調査」の内容から、二世・三世はどう受け止めたと思うか考えさせた。	・9.11に合わせてすることができたため、生徒自身が関心を持つことができた。 ・日本だけでなく、他国の視点を生徒に示すことによって、戦争や平和について考えざえる機会を与えることができた。 ・ハワイでの修学旅行で強制収容所について学ぶフィールドワークに参加する生徒もいたため、事前学習としての役割を果たすことができた。

## 社会性のある教科書に基づくパフォーマンス課題

	英語のパフォーマンス課題 (SGH第2・3年次報告書による)	複数解の性質	協働性	真正性(リアルな課題か)	レリバンス(身に迫るか)	科目内の知識・技能の活用	他科目・教科の知識・技能の活用	汎用的手法の利用
H 28	教科書に出てきたゴディオ氏と、氏へのインタビューに扮し、質疑応答する	△	対話	○	×	教科書本文	—	インタビュー
H 28	コピーライターとして同僚と協働してキャッチコピーコンテストへの応募作品をプレゼンテーションする	○	班	○	×	武装解除を扱った本文→人の心を動かす課題	—	プレゼン
H 28	地雷撤去グループの一員として、実際の地雷問題を調べ、その地域の最善の撤去方法をプレゼンテーションする	○	班	○	△	教科書に出てきたことの追加学習	外部情報	プレゼン
H 29	「世界『国際問題を考える日』コンテスト」の広島高校チームとして、最も注目すべき社会問題を選び、象徴的な写真を示しながら要因・現状・解決に向けた展望を発表する	○	班	○	○	本文「20世紀の出来事の影の部分」→発展的に現在を扱う	外部情報	スライド発表
H 29	地球温暖化の要因を一つ取り上げ、グループで深く調べて、人や環境への影響と解決策をパワー・ポイントにまとめ発表する	○	班	○	△	教科書に出てきたことの追加学習	外部情報	パワーポイント発表

# 英検の取得者はSGHによって大幅に増えた

大学入試に直接的に使えるようになったことなど、他の影響もあるでしょうが  
**海外研修や異文化交流の機会が意欲を押し上げている**

**実用英語技能検定 取得者数一覧(平成25年度分)**

	準1	2	準2	3	4	5	取得者	人数
高1	2	12	50	147	1	—	212	237
高2	5	31	30	117	8	2	193	239
高3	1	27	32	85	4	3	152	236

\* 平成25年度第3回実用英語技能検定終了時の取得者数一覧です。

1人の生徒が複数級保持している場合は下位級を数に加えていません。

H26から県のグローバル教育対応事業が  
始まったので、その前年と比較

SGH  
以前

**平成28年3月8日集計**

	準1	2	準2	3	4	5	取得者数
高1	3	77	112	37	3	3	235
高2	8	95	65	59	1	—	228
高3	5	58	36	117	2	—	218

SGH  
初年

**令和2年3月12日集計**

	1	準1	2	準2	3	4	5	取得者数
高1	—	6	107	76	50	1	1	241
高2	1	8	152	47	21	1	1	231
高3	—	27	147	37	22	—	—	233

SGH  
最終年

\* 数値は令和元年度第3回実用英語技能検定終了時の取得者数。

# 余談ですが スタンフォードの学び方

スタンフォードe-Hiroshimaの方法 が興味深かったので紹介します

- ・半年の学び。前半は1単元2週間で6つのトピックを扱い、後半は関連したテーマを自分で設定し課題研究を行う
- ・前半のテーマ

日本から米国への移民・多様性・平和教育・シリコンバレーと起業家精神・姉妹都市－広島とホノルル など

- ・1つのテーマに対し
  - ①1冊以上本を読む
  - ②レポートを書く
  - ③バーチャルクラスルームで議論する
  - ④掲示板に既定本数以上の書き込みをする

擬似的「話す・聞く」と捉えられる？



スタンフォード大学による日本の高校生向けのプログラムは最初からリモート前提。  
Webを使う、充実した学びとしてよく考えられている と思う  
もっともこれは応募してきた少数精銳向けの講座であって、最初から意欲の問題と規模の問題はクリアしている